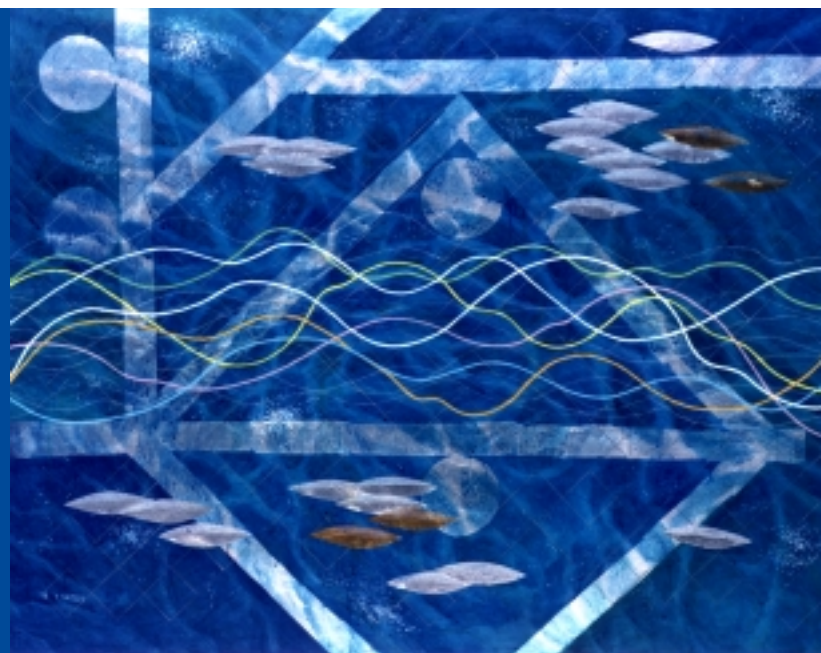


TDK環境報告書2001



L O V E t h e F U T U R E

未来のために、今 私たちができること

TDK's ENVIRONMENTAL REPORT 2001



contents

ごあいさつ	01
企業概要	02
環境マネジメント	
担当役員ごあいさつ	04
TDK環境憲章	05
推進組織	06
環境マネジメントシステム	07
自主推進目標値とTDKの取り組み	08
環境コストと環境負荷	10
製品開発	
環境配慮型製品の開発	12
鉛フリー化	13
環境配慮型製品の紹介	14
工場生産活動	
グリーン購入	16
廃棄物の削減、再資源化	17
ゼロエミッションへの挑戦	18
地球温暖化防止	20
化学物質管理	22
PRTR	23
地球環境保全活動	24
海外での取り組み	26
企業社会	
社員教育、啓蒙	28
社会貢献活動	29
安全衛生	30
TDKの環境保全活動の経緯	31
情報公開	32
資料編	33
お問い合わせ先	65

「TDK環境報告書2001」の

編集方針について

「TDK環境報告書2001」は、日本を中心としたTDKグループ（連結子会社）全体の2000年4月1日から2001年3月31日までの実績をもとに作成されたものです（一部2001年4月1日以降の活動内容と将来の見通しも含まれています）。

TDKが環境報告書を毎年発行している理由は、事業と環境活動が4月から翌年3月までの1年間の周期で行われるためです。事業所の環境負荷等の分析を6月まで行うため、原則として上半期末（9月）の発行とし、今後も毎年発行していく予定です。

TDKでは1999年に初の環境報告書を作成し、今回が3回目の発行となります。誌面は、TDKグループの環境への取り組みの中から重点的に取り組んでいるテーマを中心に編集されました。また、今回は環境報告書のガイドラインのうち、世界的な潮流の一つであるGRIガイドライン（2000年6月発行）を試行的に取り入れ、誌面構成を一部見直しました。

※本文中の年度表記については、当該年4月1日から翌年3月31日までの1年間を示します。例えば「2000年度」は「2000年4月1日から2001年3月31日まで」を示します。



「環境の時代」と言われる21世紀を迎えました。日本では循環型社会形成推進基本法が4月より施行されるなど、20世紀の資源消費型社会を、資源循環型社会に転換し、実現することが待ったなしの状況になってきております。企業はもはや「地球との共生」を基本とした持続的発展なくして存続できません。エレクトロニクス産業においては、今まで以上に製品の「軽薄短小」が要求されるばかりでなく、資材購入から製品の廃棄まで製品のライフサイクル全般にわたって地球環境に配慮し、環境負荷の少ない製品を提供していく必要があります。

TDKは、今まで以上に環境への配慮を徹底していくため、2000年4月から2004年3月までの新中期計画「Exciting108」の中で、基本方針のひとつに「Zero Emissionへの挑戦」を掲げ、企業活動全般にわたって環境保全活動に取り組むことを表明しました。その骨子としては、1.資源の枯渇防止につながるゼロエミッション活動の推進、2.地球温暖化防止に貢献する省エネルギー活動の推進、3.健康で明るい生活を送るための有害物質の削減、を主眼とし、具体的中期目標を設定し、推進中です。新中期計画初年度にあたる2000年度の主な成果として、廃棄物を出さないクローズドシステム導入や再資源化の推進による埋立廃棄物（処理業者委託量）の削減、鉛フリーはんだへの技術対応完了などの成果を挙げることができました。今後、クローズドシステムの横展開や、鉛フリー製品の開発と顧客への承認活動、省エネルギーの推進強化等を実施し、TDKが環境先進企業としてふさわしい活動ができるよう取り組んでいきます。

また、こうした環境への取り組みが企業経営の一環として行なえるよう、2001年4月より環境会計の試験導入を開始し、環境面での支出対効果を明確にしていきます。

本報告書は、2000年度のTDKにおける環境活動の内容を取りまとめたものです。本報告書をお読みいただくことにより、TDKの環境への取り組みをご理解いただき、加えてTDKの今後の環境活動の質と効果を高め、TDKの企業価値を高めていくためにも、忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。

TDK株式会社
代表取締役社長

澤 部 肇

企業概要

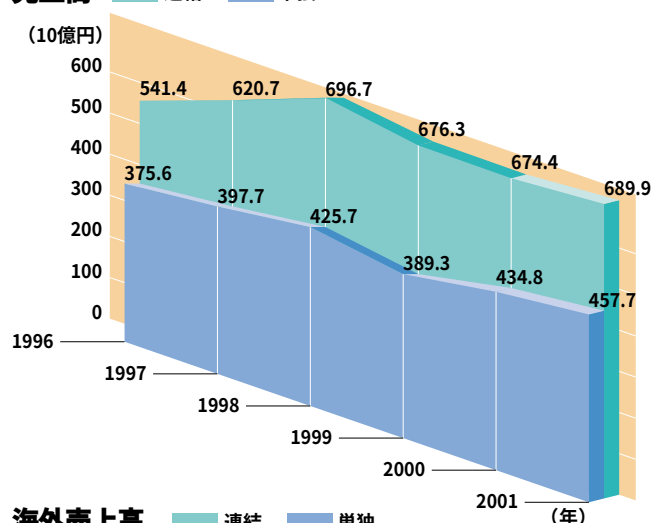
02

会社概要

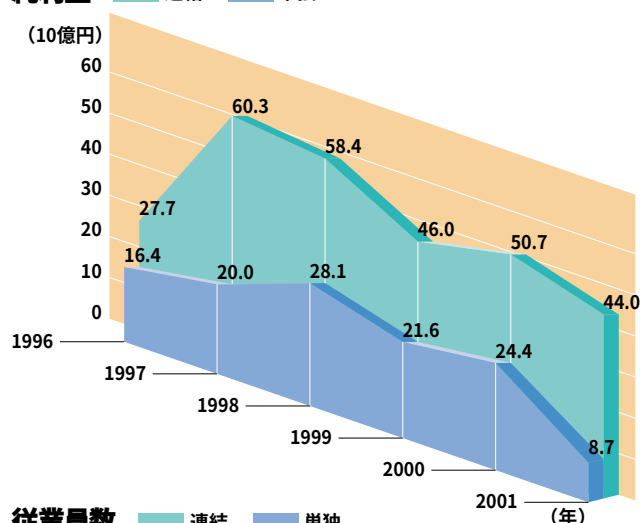
商号	TDK株式会社 (英文商号:TDK Corporation)
本社	東京都中央区日本橋1-13-1
設立	1935年12月7日
資本	32,641,976,312円
従業員数	37,251人(連結)
売上高	6,899億円(連結)
純利益	439億円(連結)

(数字はいずれも2001年3月末)

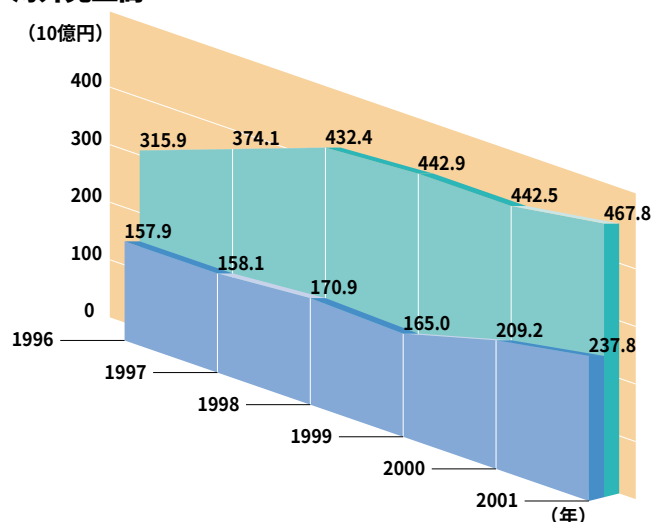
売上高



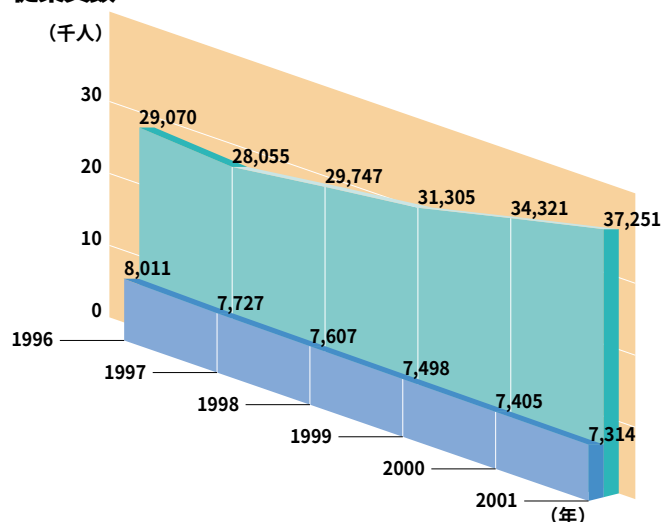
純利益



海外売上高



従業員数

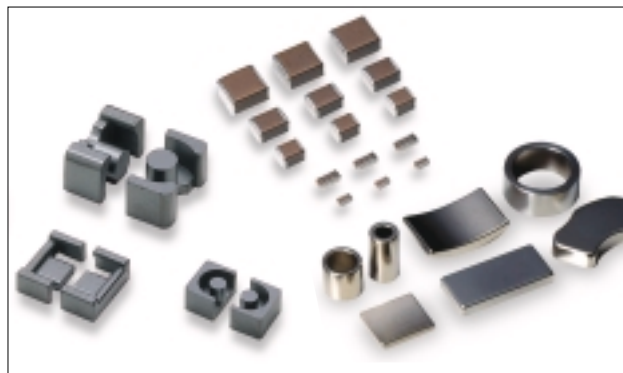
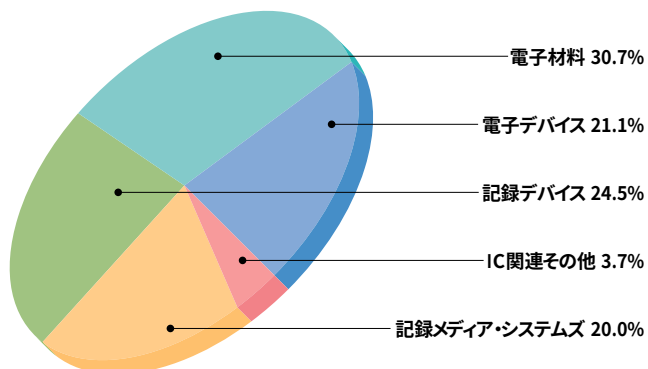


※詳しい財務情報は当社のアニュアルレポートをご覧ください。

※上記数値は各事業年度(前年4月より翌年3月まで)ベースのものとなっています。「2001」と表記されている年度は2001年3月で終了した事業年度のものであり、その他のものは同様の期間を対象としています。

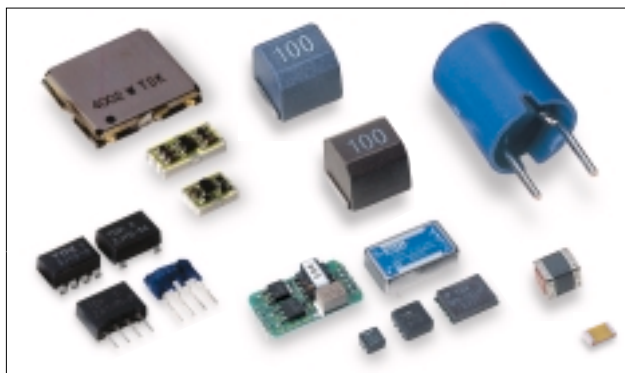
主な製品

製品別売上比率



電子材料製品

主な製品／積層チップコンデンサ、インダクタ・トランス用フェライト用コア、テレビ及びコンピュータ・モニター用偏向ヨークコア、フェライト・マグネット、希土類マグネット



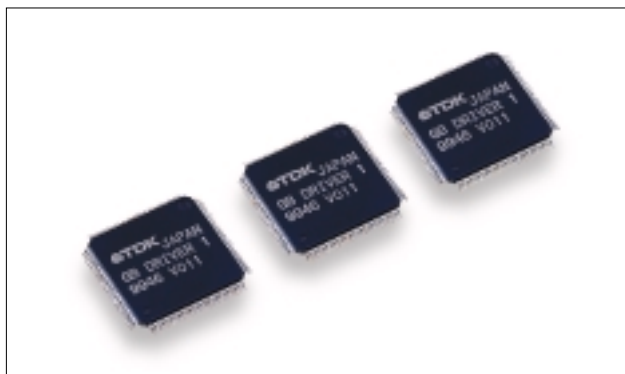
電子デバイス製品

主な製品／インダクタ、EMC（ノイズ対策）部品、トランス、高周波部品、NTCサーミスタ、チップバリスタ、DC-DCコンバータ、DC-ACインバータ、スイッチング電源



記録デバイス製品

主な製品／HDD用MR及びGMRヘッド、大容量FDD用ヘッド、サーマルヘッド



IC関連その他製品

主な製品／モデム用IC、LAN/WAN用IC、FA装置、電波暗室



記録メディア・システムズ製品

主な製品／オーディオテープ、ビデオテープ、CD-Rディスク、ミニディスク（MD）、コンピュータ用データストレージテープ、PCカード

担当役員ごあいさつ

04

環境先進企業を目指して

環境保全への取り組みが世界的な課題となっている今、企業には環境活動を積極的に進め、持続的発展が可能な資源循環型社会の実現に貢献することが求められています。

2000年度はゼロエミッションの推進を中心に環境全般に関する課題に取り組んできました。以下に重要課題の成果と今後の展望についてご紹介させていただきます。



ゼロエミッション

廃棄物を出さない具体的施策としてクローズドシステムの導入を行いました。また、やむを得ず排出される廃棄物の再使用と再資源化を進めております。今後、クローズドシステムの横展開を図るとともに、100%再資源化への取り組みを進め、2004年3月までのゼロエミッション達成に向けて推進してまいります。また、海外事業所でも5事業所を対象にゼロエミッションを推進しておりますが、TRE[※]では既にゼロエミッションを達成しております。

鉛フリー化

鉛フリーはんだへの技術対応は既に完了し、量産化と承認活動を推進中です。並行して、材料の非鉛化の技術的取り組みを継続して進めております。

省エネルギー

生産性の改善等あらゆる努力を続けておりますが、自主推進目標値に対しては大幅に未達となっております。そこでエネルギー管理体制の構築と、一層の省エネルギーを進めるための現状把握と具体的なテーマの設定推進を加速し、さらなる努力を続け目標達成を図ってまいります。

環境マネジメント

新たに海外4事業所と本社でISO14001の認証を取得した一方、生産形態の見直しに起因する工程移管等の原因で一部海外事業所の認証取得が遅れておりましたが、これらの事業所においても2001年12月までに全て認証取得の計画です。

TDKは持続的発展に向けて「未来のために今何ができるか」を社員一人ひとりが考え、行動することにより、資源循環型社会の実現に貢献できると確信し、さらに取り組んでまいります。

TDK株式会社
安全環境担当役員
専務取締役

西村 俊孝

社 是

創造によって文化、産業に貢献する

社 訓

夢・勇気・信頼

TDK環境憲章

基 本 理 念

TDKは、地球環境が全ての生命を育む母胎であることを認識し、あらゆる企業活動の中で、好ましい環境を次世代へ引き継ぐ行動を、全員で実行します。

基 本 方 針

環境保全、省エネ、省資源など地球環境を総合的に考慮し、循環型社会へ対応出来る企業活動を行う。

行 動 指 針

TDKは良き企業市民として、地球環境問題や資源保護に留意した企業活動を行うことにより、社是の実現を具体化する。

環境問題への取り組みに対する、行動指針を次のように定める。

- 1.環境管理活動を推進するため担当役員を頂点とした組織体制を整備し、実行する。
- 2.法律規制を遵守するとともに、環境管理レベルの向上を図る。
- 3.環境監査を実施し、自主環境管理の維持向上に努める。
- 4.環境管理規程や、環境管理年次報告書などを発行し、常に管理規範を新しくする。
- 5.環境負荷を減らすため、製品設計の段階での安全環境の評価や、開発、製造における省エネ、省資源を考慮し、環境保全に適合した製品を提供する。
- 6.関連会社や海外生産拠点を含めたTDKグループとしての環境管理活動とする。
- 7.企業市民として地球の環境保全に貢献する。
- 8.社員の環境教育により意識の向上を図り、環境保全活動への参加を支援する。

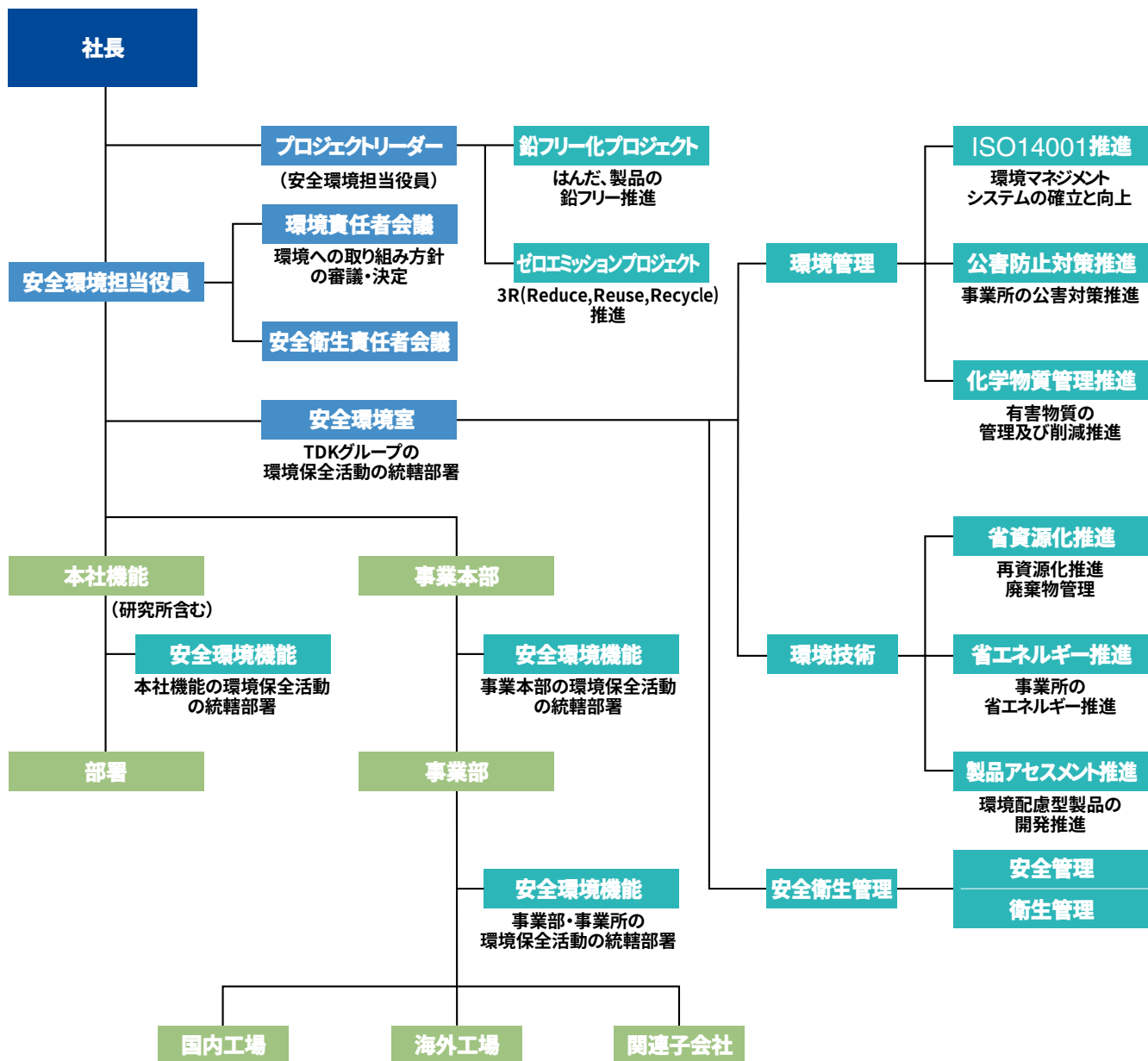
推進組織

06

横断的組織による全社活動を展開しています。

TDKの地球環境保全推進組織は、社長直轄のもと、全社活動の方向づけと審議を行う「環境責任者会議」をはじめ、すべての事業部、本社機能、関連会社を横断的に貫くも

のとなっています。特に重要な課題については、全社プロジェクトを結成することで取り組みを加速させております。



環境マネジメントシステム

資源循環型社会への貢献を目指して

TDKの考える環境先進企業とは「有害物質を使わず、最高の資源効率で、有用な製品を世に送りだし、外部に対してオープンで、かつ適正利潤をあげられる企業」です。

TDKでは、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001をベースに運用することで、事業所管理、企業姿勢、製造・製品、資材調達的环境管理活動を統括管理し、相乗効果により2004年3月までにゼロエミッションを達成し、資源循環型社会への貢献を目指します。

環境マネジメントシステムの認証取得

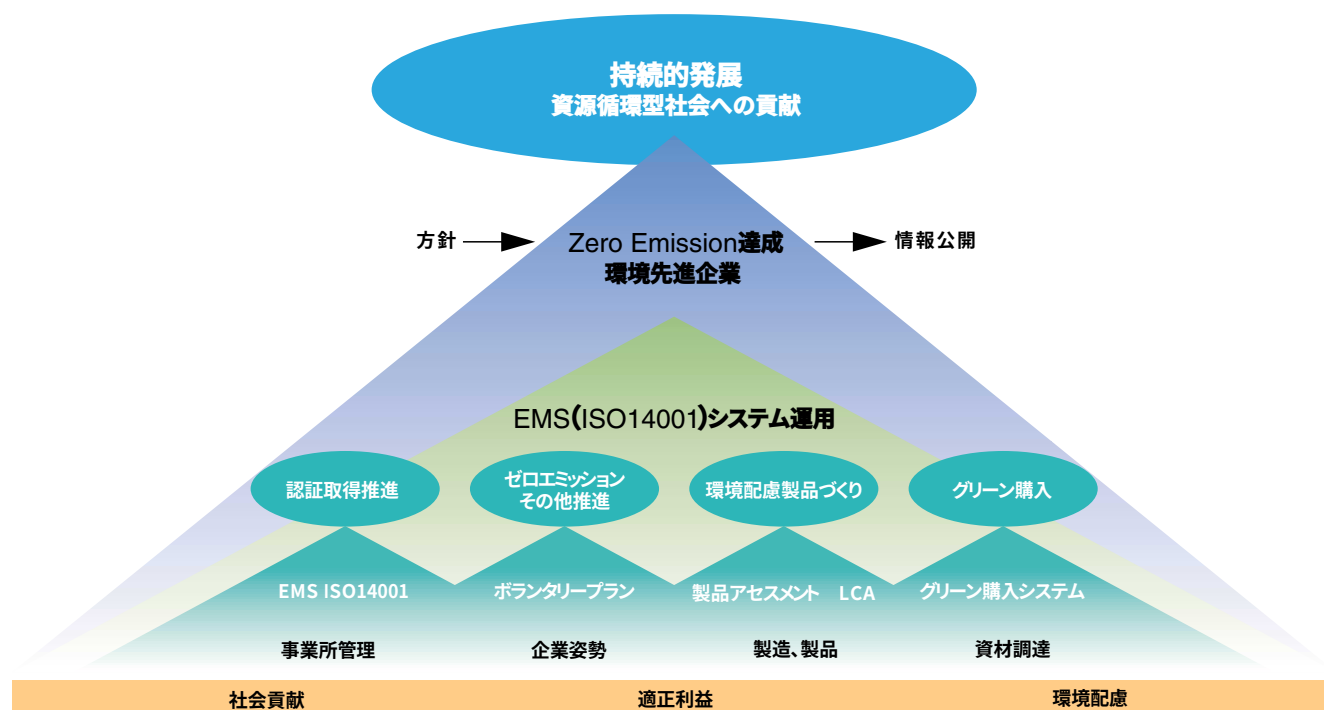
TDKでは環境管理を経営の重要課題と位置づけています。これまで国内の製造拠点・研究開発拠点のすべてでISO14001の認証取得を進めてきましたが、非製造事業所である本社でも2001年3月に認証を取得。サービス子会社でも、2001年12月までの認証取得を目標に進めています。

環境マネジメントシステムの実効性向上

環境マネジメントシステムをより定着させるための施策として、TDKでは、内部監査員の養成研修・フォローアップ研修及び環境の基礎コースなど研修体系の構築や、環境汚染を未然に防止するための監視・測定体制の強化、及び緊急事態への予防・緩和処置対策の見直しなどを進めています。2000年度は、社内研修として140名、社外委託研修として90名の内部監査員の養成研修を実施しました。



内部監査員養成研修

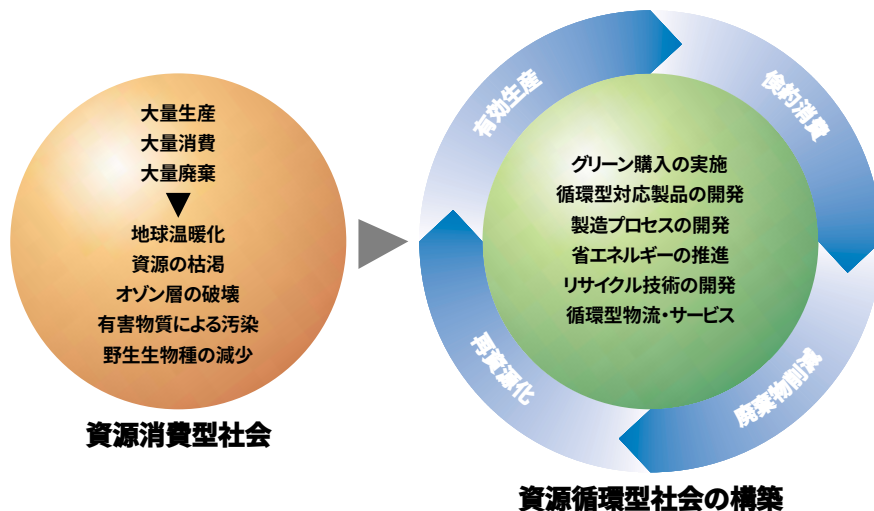


自主推進目標値とTDKの取り組み

08

自主推進目標値と進捗について

TDKでは1993年に「TDK環境ボランティアプラン」を策定し、環境に関する行動指針を定めました。これをより具体的な活動へと展開するため、自主推進目標値を掲げて個別課題に取り組んでいます。自主推進目標値については、推進課題の進捗状況や内外の情勢変化など、必要に応じて見直しを行っています。2001年3月末現在の自主推進目標値に対する進捗状況は、下記の通りです。



TDKグループの自主推進目標値※と実績

推進課題	推進目標値
環境マネジメントシステム構築 (ISO14001に沿った環境マネジメントシステム構築を推進する)	・2001年3月までに海外工場の認証を取得する。 ・2001年3月までに本社およびサービス子会社の認証を取得する。
環境配慮型製品の開発	・製品アセスメントを新製品に関し100%実施する。 ・2001年3月までにはんだの鉛フリー対応を完了する。 ・製品への鉛使用を継続的に削減する。 ・環境負荷の定量的な把握の為、LCAを導入する。
地球温暖化防止	・2010年までに生産高CO₂原単位(原油換算)を1990年度比25%以上向上させる。 ・PFC排出量を2010年までに1995年度比で80%削減する。
ゼロエMISSIONの推進	・3R(廃棄物の削減、再使用、再資源化)の積極的展開。 ・事業所から排出される廃棄物の廃棄を2004年3月までにゼロとする。 ・事業所から排出される廃棄物の総排出量を2004年3月までに、1994年度比10%削減する。
環境負荷物質使用の低減	・塩化メチレンを2001年3月までに全廃する。 ・化学物質の排出量を2005年までに1997年度比で20%削減する。
グリーン購入	・生産用、原材料部材のグリーン購入を推進する。 ・オフィス用グリーン購入を拡大する。 ・鉛フリー製品の積極的購入。
地域貢献	・地域のイベントへの参加(緑化運動、清掃活動)

※ 自主推進目標値の改定は2000年12月

自主推進目標値の見直しについて

自主推進目標値について2000年度に見直した内容は、下記の通りです。

環境マネジメントシステム

海外のすべての生産拠点におけるISO14001認証取得が、目標だった2000年3月において未達でした。そのため、認証取得完了の目標を2001年3月としました。

環境配慮型製品の開発

製品アセスメントの海外実施、環境配慮型製品の認定制度の導入が完了したことから、製品アセスメントのレベルアップに関する新たな目標を設定しました。また、鉛フリーに関する推進課題の位置づけを見直しました。

地球温暖化防止

地球温暖化防止の観点から、省エネルギーに関する目標を原油換算からCO₂換算に見直しました。また、PFC排出量の削減目標を達成したことから、より高い目標へと見直しました。

ゼロエミッションの推進

TDKの新中期計画「Exiting108」との整合を図るため、ゼロエミッション達成の最終年度を2年前倒しとしました。また、3R（廃棄物の削減・再使用・再資源化）を積極的に推進することを明確にし、廃棄物の総排出量についても削減目標を定めました。

その他

新たに、グリーン購入、地域貢献に関する推進課題を設定しました。

2000年度実績		今後の取り組み	関連頁
・2000年度は4事業所で認証取得しました。	✕	・残りの3製造事業所については、2001年12月までに認証を取得します。	26
・本社の認証取得を完了しました。	✕	・サービス子会社3社については、2001年12月までに認証を取得します。	7
・100%実施しました。	☀	・100%実施を継続いたします。	12
・はんだの鉛フリー化に対する技術開発を完了しました。	☀	・顧客への承認活動を実施していきます。	13
・一部素材で鉛フリー対応を完了しました。	➡	・鉛フリー素材の開発を強化します。	13
・LCA導入を決定しました。	➡	・LCA導入による定量的環境負荷の把握を推進します。	12
・前年度比0.5%悪化し、1990年度比3.5%悪化となりました。	🔴	・コージェネレーションシステムを導入します。風力発電の調査を行います。生産工程の効率化、空調の省エネルギーを促進します。	20
・前年度比105.2%増で、1995年度比44.7%削減となりました。	🔴	・代替物質の切替を検討します。	21
・廃棄物を出さない、クローズドシステムの導入を実施しました。	➡	・クローズドシステムの横展開を図ることで、廃棄物の排出抑制を推進するとともに、止むを得ず排出される廃棄物の100%再資源化を進め、2004年3月までにゼロエミッションを達成します。	17～19
・廃棄物処理業者委託量を前年度比4,206トン削減し、13,562トンとなりました。	➡		
・前年度比3.5%削減し、1994年度比5.6%削減しました。	➡		
・6事業所で新たに全廃しましたが、9事業所では全廃できませんでした。（37事業所中28事業所で全廃）	✕	・2001年9月までに全廃する予定です。	23
・前年度比3.1%削減し、1997年度比9.0%削減しました。	➡	・塩化メチレンの全廃を中心に削減します。	23
・主要取引先企業300社について調査を実施しました。	➡	・新規取引先企業の調査を継続して実施します。	16
・TDKグリーン購入ガイド（オフィス編）を作成しました。	➡	・オフィス用品のグリーン化を拡大します。	16
・取引先企業に対して鉛フリーはんだ対応部品納入要請を開始しました。	➡	・継続して鉛フリー製品の購入を推進します。	16
・各事業所で緑化運動、清掃活動に参加しました。	➡	・各事業所で積極的に参加を継続していきます。	29

環境コストと環境負荷

10

環境会計導入への動き

以下に2000年度の環境コストと環境負荷を示します。TDKは従来から環境保全にかかる費用と環境負荷の把握を行っておりますが、この環境費用と環境負荷との関連を明確にし、より効果的な環境対策を推進する目的で、環境会計の実施基準として「TDK環境会計実務」を作成し、2001年4月より、モデル事業所を設定して環境会計の試

験導入を開始しています。次表はこの「TDK環境会計実務」に基づいて実施したモデル事業所の2000年度の集計結果です。今後、試験導入の結果を踏まえ、全事業所で展開する予定です。また、得られた集計結果をもとに環境保全の効果を指標化するなどし、経営指標として利用することも検討しております。

2000年度環境コストの集計

分類	環境コスト			環境保全活動による効果	当該年度環境負荷総量	前年度対比の増減量
	当該年度投資額合計 (千円)	当該年度環境保全維持管理費 (千円)	当該年度人員 (従業員:人)			
1.事業所内エリアコスト						
公害防止 (法規制管理)	599,123	524,476	65	大気・水質の 遵守状況 (P38～P56参照)	大気放出	
・大気汚染防止					SO _x (t)	34
・水質汚濁防止					NO _x (t)	472
・騒音防止					ばいじん (t)	18
・振動防止					ばいじん (t)	-1
・悪臭防止					排水量 (t)	
					3,730,000	221,000
地球環境保全	139,745	119,974			エネルギー使用量 (t-C)	
温暖化防止 (緑化推進を含む)					108,460	5,152
オゾン層破壊防止	0	72				
資源循環	103,644	409,623		有価売却益 (千円)	主原材料使用量 (t)	
省資源 (社内リサイクルを含む)					49,000	-3,000
・社外リサイクル					用水使用量 (t)	
・廃棄物処分	14,945	598,628			4,243,000	85,000
				290,428	社外リサイクル量 (t)	
					14,074	5,562
					廃棄物処分委託量 (t)	
					13,562	-4,206
				実施件数 (件)	PRTR対象化学物質の排出量 (t)	
				2	1248.3	-39.9
リスク管理	5,000	9,331				
・化学物質排出対策						
・土壌汚染リスク管理						
・グリーン購入システム						
・製品対応・包装等のリサイクル	0	2,804	0			
2.上・下流コスト						
3.管理活動コスト						
EMS構築・運用	0	25,550	47			
認証取得・審査						
環境教育		9,858				
4.研究開発コスト						
	0	82,002	18	環境配慮製品研究開発件数 (件)		
				3		
5.社会活動コスト						
環境関連団体への寄付、参加		1,060				
社外の緑化推進						
環境情報開示		43,033		掲載件数 (件)		
				12		
6.環境損傷コスト						
土壌汚染・自然破壊等修復	0	73,819	0	修復実施件数 (件)		
				2		
環境関連保険料		0				
賦課金		4,294				
罰金、課徴金、訴訟		0				
総計	862,457	1,904,524	130			

- (1) TDK本体および国内連結会社の生産拠点、研究開発拠点における実績集計です。
- (2) 当該年度投資額は2000年度の支払い額です。
- (3) 当該年度環境保全維持管理費には、設備の減価償却費及び人件費は含まれておりません。
- (4) 当該年度人員には、50%以上の業務量を就労する人員を対象にしています。
- (5) 大気放出は、燃料使用量より算出しました。なお、NO_x及びばいじんについては、ばい煙発生施設を対象として集計しております。
- (6) 排水量について、排水量実績のない事業所は排水実績とみなしました。
- (7) エネルギー使用量は、電力、燃料をCO₂換算しています。
- (8) 有価物の売却益には、廃棄物の再資源化による費用の削減効果は含まれません。

環境投資額 (百万円)	862
総投資額 (百万円)	99,452
環境投資額 / 総投資額 (%)	0.9

- (9) 主原材料使用量は、資材購入実績より算出しました。
- (10) 用水使用量には、工水、地下水を含みます。
- (11) 製品対応・包装等のリサイクル費用は、容器包装リサイクル法に基づく指定法人への委託料金です。
- (12) EMS構築・運用・認証取得・審査費用には環境保全対策組織運用費用を含みます。
- (13) 環境配慮製品研究開発件数には、本社機能の研究開発部門におけるテーマ数を集計しております。
- (14) 環境情報開示の掲載件数は、産業5誌に掲載された件数です。

環境会計(三隈川サイトの2000年度集計結果)

分類	環境コスト				経済効果 環境保全活動による当該年度節減額合計(千円)	環境保全効果			当該年度 環境負荷総量	前年度対比 の増減量
	当該年度 投資額合計 (千円)	当該年度環境 保全維持管理費 (千円)	うち新規活動の 維持管理費(千円)	当該年度人員 (従業員:人)		環境保全活動 による当該年度 負荷改善結果	法規制遵守及び その他の実績 (当該年度分)			
1.事業所内エリアコスト										
公害防止 (法規制管理)	大気汚染防止	0	121,544	0	3			大気 の 法遵守状況は P46を参照	大気放出	
	水質汚濁防止	0	15,809	0				SO _x (t) 11.2	SO _x (t) 0.3	
	騒音防止	0	359	0				NO _x (t) 26.8	NO _x (t) 0.8	
	振動防止	0	0	0				ばいじん(t) 0.2	ばいじん(t) 0.0	
	悪臭防止	0	0	0				排水量(t)		
								474,768	-2,056	
地球環境保全	温暖化防止 (緑化推進を含む)	2,000	2,101	687	0	電力・燃料節減額 50,875	CO ₂ 削減量(t-C) 841	社内緑化面積(m ²) 社内植樹本数(本) 0	エネルギー使用量(t-C)	
	オゾン層破壊防止	0	0	0	0		回収・処理量 (CFC-11換算t) 0.01		11,761	-538
資源循環	省資源 (社内リサイクルを含む)	0	79,762	0	10	原材料等節減額 461,715	原材料等削減量(t) 5,861		資源使用量(t)	
	社外リサイクル (有価物売却含む)	0	97,282	0		用水節減額 0	用水削減量(t) 0		16,500	-5,785
						有価物売却益 132,794	有価物売却量(t) 538		用水使用量(t)	
							社外リサイクル量(t) 1,948		502,670	1,492
						廃棄物削減 2,750	廃棄物削減量(t) 268		社外リサイクル量(t)	
	廃棄物処分	0	11,170	0					1,948	749
リスク管理	化学物質排出対策	0	200	0	0		PRTR対象化学物質 の排出削減量(t) 6		PRTR対象化学物質の排出量(t)	
	土壌汚染リスク管理	0	46	0	0			対策実施件数(件) 0	18	-586
								環境調査実施件数(件) 0	5	-21
2.上・下流コスト										
	グリーン購入システム	0	0							
	製品対応・包装等のリサイクル	0	30		0					
3.管理活動コスト										
	環境保全対策組織運用	0	82		1					
	EMS構築・運用	0	621		1					
	EMS認証取得・審査		1,688							
	環境教育		178						教育受講延べ人数(人日) 442	
4.研究開発コスト										
		0	0		0			環境配慮製品研究・ 開発件数(件) 0		
5.社会活動コスト										
	環境関連団体への 寄付、参加		225					社外緑化面積(m ²) 社外植樹本数(本) 25本		
	社外の緑化推進				ボランティア活動の 参加延べ人数(人日) 48					
	環境情報開示			0	出稿・掲載件数(件) 0					
6.環境損傷コスト										
	土壌汚染・ 自然破壊等修復	0	0		0			修復実施件数(件) 0		
	環境関連保険料		0							
	賦課金		1,302							
	罰金、課徴金、訴訟		0							
総計		4,750	333,489	1,776	15	647,292				

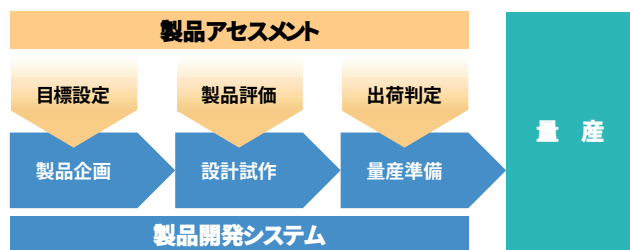
- (1) 当該年度投資額は2000年度の支払い額です。
(2) 当該年度環境保全維持管理費には、設備の減価償却費を含み、人件費は含まれておりません。
(3) 当該年度人員は、業務量比率を合計した人員です。
(4) 大気放出は、燃料使用量より算出しました。なお、NO_x及びばいじんについては、ばい煙発生施設を対象として集計しております。
- (5) エネルギー使用量は、電力、燃料をCO₂換算しています。
(6) 用水使用量には地下水を含みます。
(7) 有価物の売却益には、廃棄物の再資源化による費用の削減効果は含まれません。
(8) 環境調査実施件数は、サイトとして実施した取引先企業調査の件数です。
(9) 製品対応・包装等のリサイクル費用は、容器包装リサイクル法に基づく指定法人への委託料金です。
(10) 出稿・掲載は、サイト取扱いの件数です。

環境配慮型製品の開発

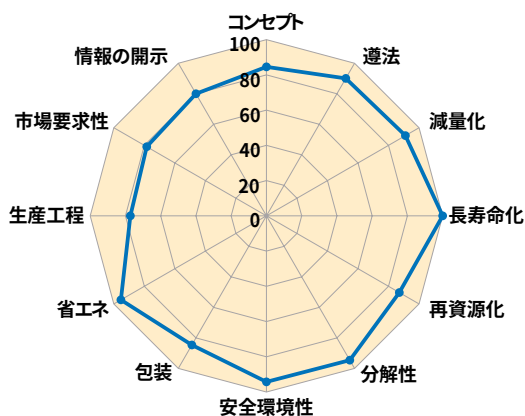
12

製品アセスメント

製品アセスメントとは、製品の開発・設計段階からそのライフサイクルにおける環境への影響を評価し、より環境負荷の少ない製品（環境配慮型製品）づくりを行う手法です。TDKでは、環境配慮型製品の開発を効率的かつ全社統一基準で進めるため、1998年に「TDK製品アセスメント」を制定し、1999年に国内事業所で運用を開始。2000年3月までにすべての海外事業所でも運用を開始しました。TDKでは、新製品の開発には製品アセスメントを義務づけ、開発の各段階において製品アセスメントを実施し、環境負荷の低減を図っています。



製品アセスメント実施結果の例



項目	得点※1	達成度(%)※2	項目	得点※1	達成度(%)※2
コンセプト	0.958	86.8	安全環境性	1.137	93.3
遵法	1.181	90.3	包装	1.136	86.9
減量化	1.000	91.5	省エネ	1.000	95.1
長寿命化	1.000	98.0	生産工程	0.979	78.7
再資源化	1.000	88.8	市場要求性	0.941	89.5
分解性	1.082	97.1	情報の開示	1.010	90.5

※1 得点は、従来製品との環境面での比較を表し1より大きい場合、環境面で改善しています。
 ※2 達成度は、各評価項目を全て満足した場合100%としています。

環境自己主張マーク

TDKでは、環境配慮型製品のコンセプトを明確にし、新製品開発時の環境面での目標として環境配慮の推進に役立てることを目的に、「TDK環境自己主張マーク」（環境配慮型製品認定制度）を1999年12月に制定しました。

環境配慮の14分野



LCAの導入

LCA（ライフサイクルアセスメント）は、原料調達から最終廃棄までの環境負荷を定量的に把握し、評価する手法です。TDKでは、製品アセスメントをレベルアップさせるために、2000年にLCA導入を決定。2001年より事業部ごとに試行を始め、2002年より主力製品についてLCAを導入していく計画です。



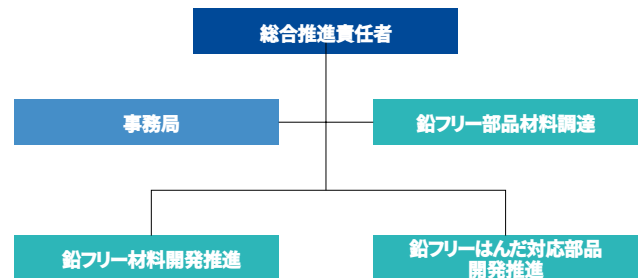
LCAの実習

鉛フリー化

鉛フリープロジェクト

鉛の摂取は、神経障害などを引き起こす有害な物質として知られています。近年、雨の酸性化が急速に進むことで、廃棄物中の鉛がこの酸性雨によって溶解し、地下水及び河川を経過して飲料水になることが懸念されています。TDKはこうした状況を考え、鉛使用の継続的削減を目的に1999年5月に鉛フリープロジェクトを発足し、全社的に組織化しました。

鉛フリープロジェクト推進体制

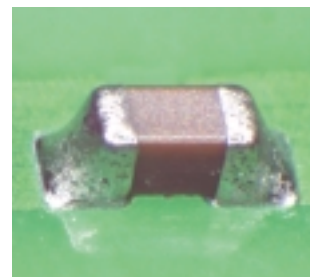


はんだの鉛フリー化

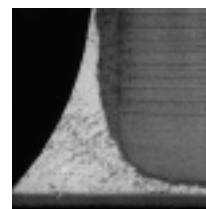
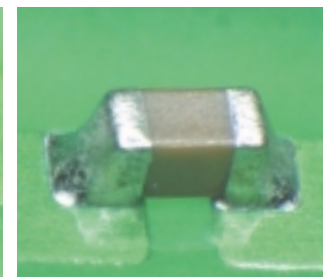
鉛フリーはんだは、Sn-Pb共晶はんだよりも熔融温度が高いため、製品の耐熱性の向上が必要であったり、鉛フリーはんだとの高い接合信頼性を得るため部品端子の鉛フリー化が必要になります。TDKはこれらの技術開発を2001年3月までに完了し2002年3月までに承認活動と量産体制を完了する予定です。また同時に、TDK製品の鉛フリーはんだも推進し2002年3月までに承認活動と量産体制を完了する予定です。

TDKではこれらを「鉛フリーはんだに対応した電子部品の開発」と「鉛フリーはんだの採用」と義務付け、2001年4月以降目標値を満足できない製品は製品アセスメントシステムでの承認が得られず、製品化できない仕組みとしました。

鉛フリーはんだ



鉛はんだ



鉛フリーはんだ接合部の断面写真

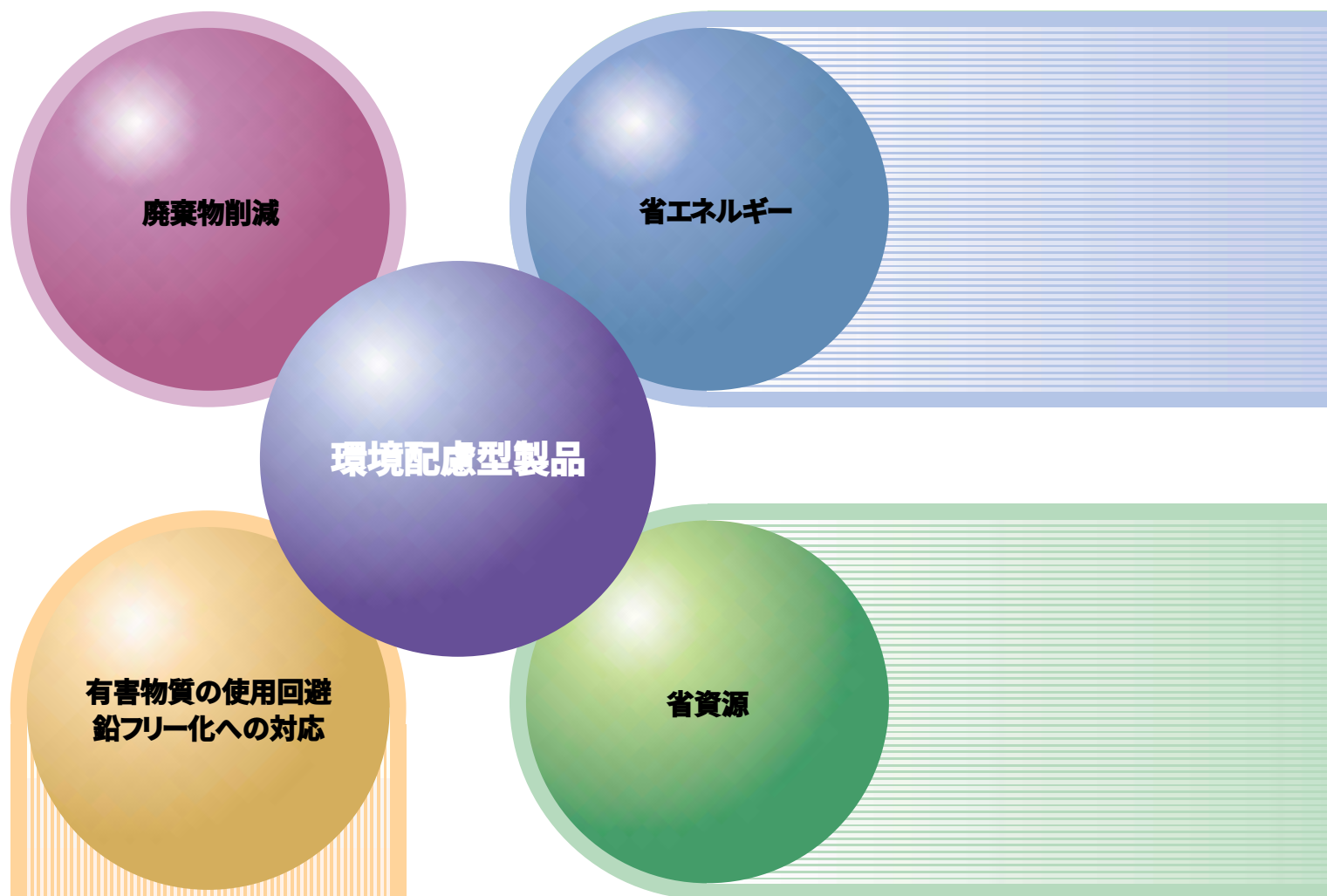
素材の鉛フリー化

TDKでは、鉛を使わない誘電体材料で大容量の積層セラミックコンデンサを製品化したり、世界初の鉛フリーセラミックレゾネータの開発に取り組んできました。今後も鉛フリー

素材の開発を強化し、TDKの製品から鉛を継続的に削減してまいります。

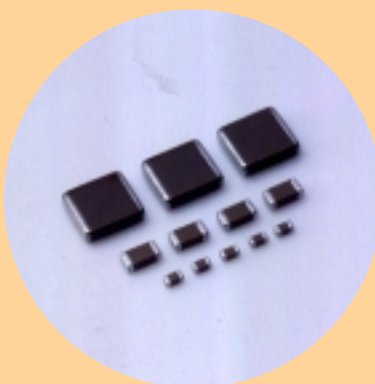
環境配慮型製品の紹介

14



● **卑金属電極積層
セラミックコンデンサ**

卑金属電極製品で業界初の導電性接着材に対応し、素材を含めて完全に鉛フリー化を実現しました。



端子電極を鉛フリー化した製品です。

● **ETC用フィルタ**



●スイッチング電源

最新の回路技術と熱解析シミュレーション技術を駆使して、変換効率向上による使用エネルギーの削減と小型・軽量化を実現しました。



●大型フラットTV用偏向コイル

大型TV用に角型溝付き形状を見直すことにより、高効率化を実現しました。また、鉛フリー対応コネクタ部品を採用しております。



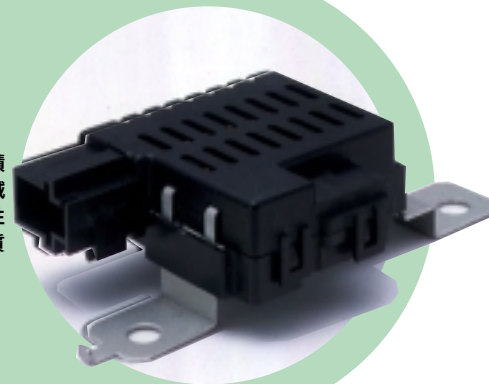
●GMRヘッド

ヘッドの高線記録密度/狭トラック化により、面記録密度あたりの材料使用量を42%削減しました。

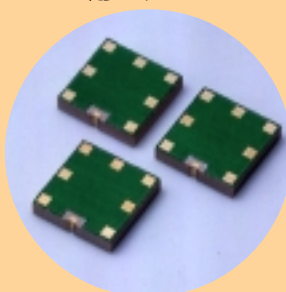


●EMCフィルタ

小型・軽量化により、容積比60%、重量比50%削減しました。また、解体容易性や、リサイクル可能な材質の採用にも配慮しています。



●ETC用パッチアンテナ



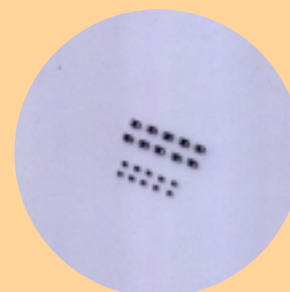
●Bluetooth用積層チップアンテナ



●3端子フィルターアレイ



●NTCサーミスタ



グリーン購入

16

生産用購入品のグリーン購入

TDKでは、独自に定めたグリーン購入基準に基づき、取引先企業の環境管理状況の調査と、購入資材に対する調査を実施しています。

企業の環境管理の調査については「企業体質基準」により、下記の実施状況について調査しています。

(1) ISO14001の認証取得状況をはじめとする

環境マネジメント管理

(2) 大気、水質、土壌の環境汚染管理ならびに

廃棄物管理

(3) クリーンな生産、クリーンな製品創出のため、国内外の法規制を取り込んだ全製品共通の化学物質管理

(4) 情報公開、教育・啓蒙活動

また、購入資材に対する調査については「製品基準」を定め、下記について調査しています。

(1) 製品に含有されている化学物質の管理

(2) 省資源、省エネルギーの管理

(3) リサイクル、分解・分別に関する管理

(4) 梱包材の化学物質管理、回収、再使用についての管理等

2000年度は購入金額の大きい取引先企業300社（金額で全体の約8割）に対して、企業の環境管理の調査を行いました。

事務用購入品のグリーン購入

これまで一般的な事務用品については、購入部門が環境に配慮した製品のカタログを用意し、その中から優先的に購入していました。今後はこうした取り組みを全社共通の基準でさらに推進し、日常業務から生じる環境負荷を低減させることを目標として2001年3月に「TDKグリーン購入ガイド（オフィス編）」を発行しました。

従業員が使用している
TDK手帳は100%再生紙を使用しています。



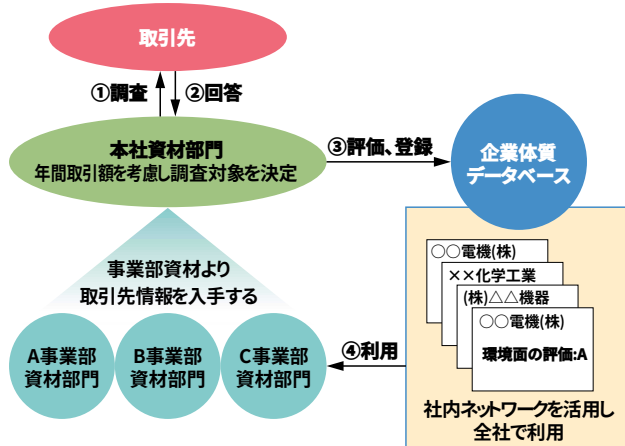
TDKグリーン購入ガイド
（オフィス編）



三隈川工場で使用している
再生紙使用品

取引先企業の調査

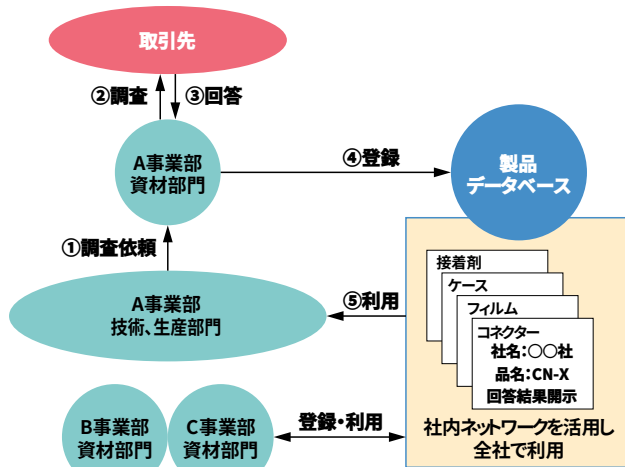
本社資材部門が主幹となり実施 ・調査の重複回避 ・全社共通の評価実施



品質 (Q) 価格 (C) 納期 (D) とあわせ、取引先を総合的に評価

購入資材の調査

事業部単位で運用 ・調査時間の短縮 ・業務分担の分散
データベースは全社の調査結果を登録 ・調査の重複回避 ・製品選択の幅を拡大

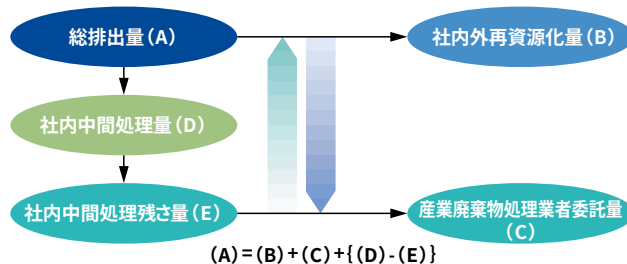


廃棄物の削減、再資源化

よりきめ細かな管理を実施

TDKでは、各事業所に廃棄物削減、再資源化の推進組織を設置。廃棄物の項目別発生量・処理費用の管理・把握・対策等、廃棄物処理法の改正によるマニフェスト（産業廃棄物管理表）管理、リデュース・リユース・リサイクルの3Rをふまえての廃棄物の発生抑制・減量化・再使用・再資源化を推進しています。

廃棄物量と概略処理フロー



2000年度の廃棄物処理業者委託量の削減状況

2000年度は廃棄物処理業者委託量をTDK本体事業所で1994年度比60%削減、国内連結会社で1997年度比30%削減することを目標に取り組みました。その結果、本体事業所は67.2%削減となり、削減目標を達成しましたが、国内連結会社は、生産のシフト等の原因で20.1%増となり、削減目標に対し未達成でした。また、2000年度の廃棄物処理業者委託量は前年度比4,206トン減の13,562トンでした。廃棄物処理業者委託量の内訳は、廃油・汚泥・廃プラスチック・廃酸の順となっており、この4つの廃棄物で84%を占めております。

2001年度の廃棄物処理業者委託量の削減目標

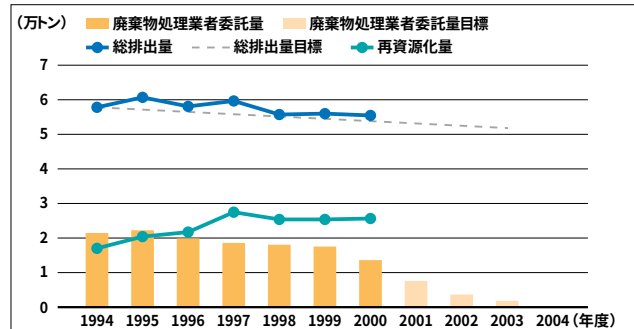
2001年度は廃棄物処理業者委託量をTDK本体事業所で1994年度比75%削減、国内連結会社で1997年度比55%削減することを目標としています。2004年3月に廃棄物処理業者委託量を0にすることが最終目標です。

廃棄物の総排出量削減

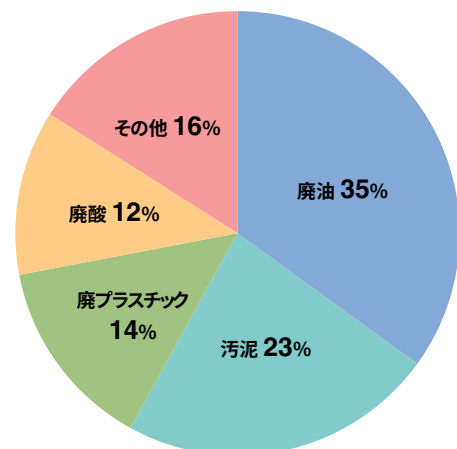
TDKでは、廃棄物の総排出量についても2004年3月までに1994年度比10%削減することを目標としています。2000年度の廃棄物の総排出量は1994年度比5.6%削減の54,591トンでした。

廃棄物処理業者委託量と総排出量の推移

(TDK本体および国内連結会社の生産拠点、開発拠点における実績集計)



廃棄物処理業者委託量の内訳 (2000年度実績)



ゼロエミッションへの挑戦

18

2004年3月を最終目標に展開

TDKでは新中期計画「Exciting108」の基本方針のひとつに「Zero Emissionへの挑戦」を掲げています。ゼロエミッションの達成は、当初予定を2年前倒した2004年3月を最終目標とし、国内のTDK本体と国内連結会社のすべての事業所でゼロエミッションの推進に取り組んでいます。実行のために全社ゼロエミッションプロジェクトを結成するとともに、各事業所にて推進基本計画を策定しています。また、海外事業所については、各国の法律や再資源化事業者の状況等を勘案し、5事業所を対象として取り組んでいます。

TDKのゼロエミッション

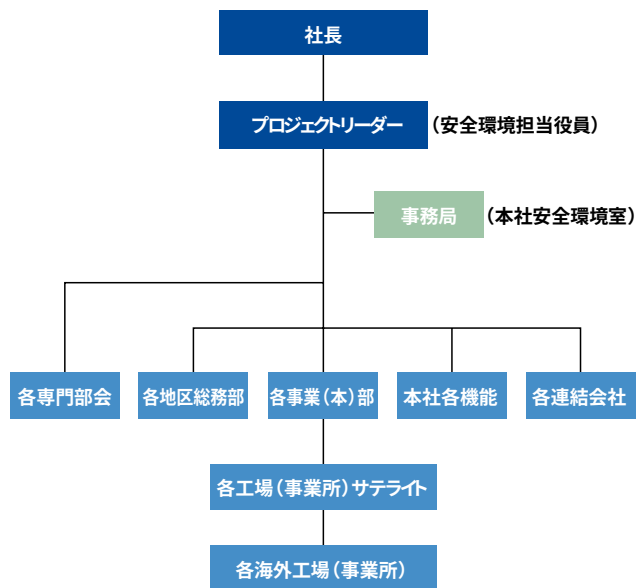
TDKの4大廃棄物は、汚泥・廃油・廃酸・廃プラスチックです。これらの再利用検討、廃棄物処理技術の蓄積も含め、製造方法の改善や工程内リサイクルによって廃棄物を極力出さない工夫、展開を図っています。やむを得ない廃棄物に関しては、減量化・社外再資源化を進め、最終的には100%の再資源化でゼロエミッションを達成とし、6ヶ月以上継続されたことをもってゼロエミッション達成の認定としています。

成功事例を全部門へ応用展開

2000年度は廃棄物の削減・再使用促進に関して、TDKの4大廃棄物のうち、汚泥・廃プラスチックを中心にテーマ展開いたしました。廃棄物を出さないクローズドシステムを目指したフェライトの汚泥回収や、メッキ液の長寿命化のモデル工程を導入し、稼動しております。溶剤回収装置についても実施し、TDK全部門への応用展開を計画しています。また、TDKの全部門において、廃棄物を徹底的に分別することで、再資源化を可能にしました。具体的には、汚泥の製鉄原料やセメント原料への再資源化を積極的に推進。

廃プラスチックに関しても、繊維原料やセメント原料への再資源化を進める努力をしています。

全社ゼロエミッションプロジェクト推進組織図



ゼロエミッション定義

TDKのゼロエミッション：エコファクトリー型ゼロエミッション

事業所から排出される廃棄物について3R（リデュース、リユース、リサイクル）の徹底を行ない、最終的には100%の再資源化でゼロエミッション達成とする。

対象物質： TDK廃棄物分類で定める17種類とする。
但し医療廃棄物、し尿は除く。

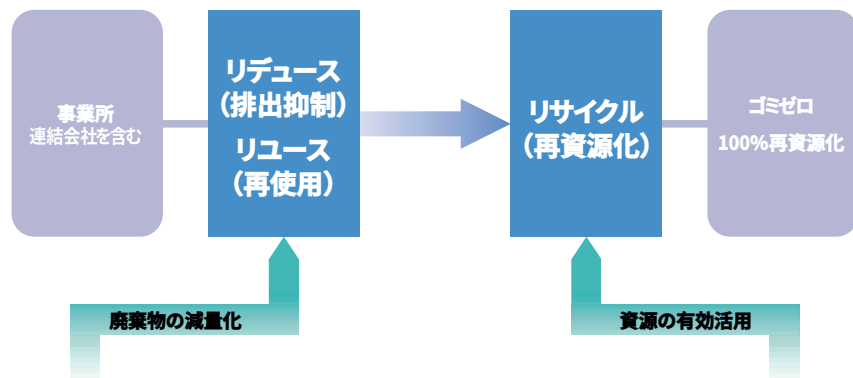
対象範囲： 連結会社を含む、ISO認証取得
もしくは認証取得見込みの事業所を対象とする。

目標期限： 2004年3月
但し海外事業所については、※台湾TDK、TCU、TMD、TRE、BTMTを対象とする。

達成認定： ゼロエミッション達成月から6ヶ月以上継続された
ことの確認を持って認定とする。

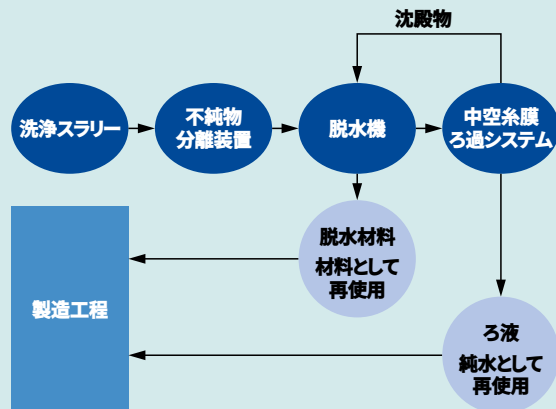
※ 台湾TDK=TDK Taiwan Corporation、TCU=TDK Components U.S.A.,Inc.,
TMD=TDK Manufacturing Deutschland GmbH、TRE=TDK Recording Media Europe S.A.,
BTMT=BT Magnet-Technologie GmbH

ゼロエミッション推進の具体的事例



減量化・再使用促進のための具体的措置

フェライト材料クローズシステム概略

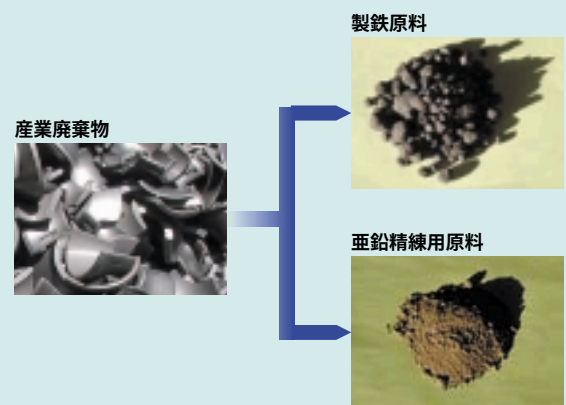


洗浄用廃溶剤の再生装置



再資源化事業分野との連携強化と自主的再生事業への展開

フェライトの製鉄原料への再資源化



PETのカーペット(繊維)への再資源化



地球温暖化防止

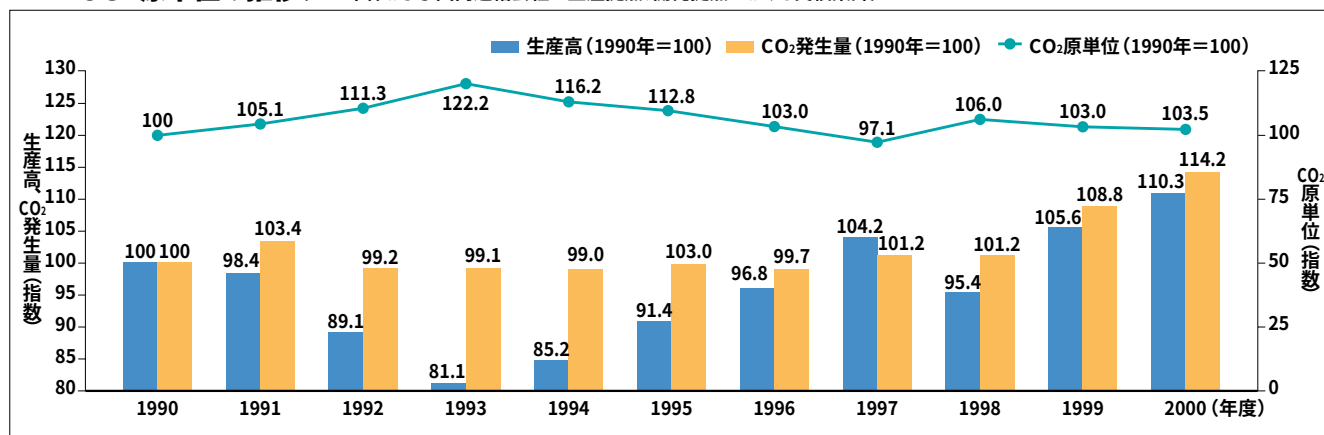
20

省エネルギー推進

TDKでは、地球温暖化防止対策の鍵は省エネルギー推進によるCO₂排出の抑制にあると位置づけ、国内の主要事業所を中心に生産設備の効率化による省エネルギー活動を進めています。目標として掲げているのは、2010年度ま

でに生産高CO₂原単位を1990年度比25%以上向上させることです。なお、2000年度の生産高CO₂原単位は、生産高の伸び悩みによって、0.5%悪化しました。

TDK CO₂ 原単位の推移 (TDK本体および国内連結会社の生産拠点、開発拠点における実績集計)

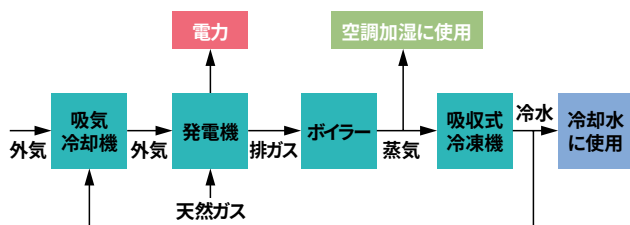


2000年度の主な取り組み

コージェネレーションシステムの導入

千曲川第2テクニカルセンターでは、薄膜ヘッドの生産工程にクリーンルームを必要とし、その空調システムに多くのエネルギーを消費しています。そこで検討の結果、自家発電により発生する廃熱がクリーンルームの空調システムに有効利用できることから、コージェネレーションシステムの導入を決定。2001年7月から稼働を始めました。また、燃料を天然ガスにすることによって、CO₂発生を抑制しています。

コージェネレーションシステム概略図



風力発電

日本海に面している稲倉工場では、2001年4月より風況の詳細な調査を開始しました。1年間の測定結果をふまえ、風力発電導入の可否を検討する予定です。

省エネ法遵守の徹底

2001年4月から実施された経済産業省の工場調査見直しにより、省エネ法[※]に基づく設備個々のエネルギー管理状況の徹底が求められるようになりました。TDKでは、第一種エネルギー管理指定工場に該当するすべての事業所で自発的にエネルギー管理状況の調査を実施。この結果をふまえ、エネルギー管理の改善や省エネルギーテーマの発掘につなげていきます。

[※] エネルギーの使用の合理化に関する法律

2000年度各事業所における省エネルギー事例

(1) 生産・製造工程の改善

工程ごとの原単位を把握し、製品の品質を確認しながら工法開発および工程改善を進めています。

省エネルギーテーマ	事業所	施策効果
焼結炉の効率運転	成田	270MWh/年
焼成炉・焼付炉の効率運転	秋田	207MWh/年
乾燥前スラリーの濃度アップ	稲倉	100kl/年(原油換算)
ラインの無洗浄化	象潟TDK	156MWh/年
ロータリーキルンの効率運転	平沢	259MWh/年
組立工程のタクトアップ	鶴岡TDK	700MWh/年

(2) 廃熱利用

廃熱利用の可能性を探りながら、テーマを発掘しています。

省エネルギーテーマ	事業所	施策効果
炉廃熱の利用	静岡	239MWh/年

(3) 制御方法の改善

流体機械のインバータ化を積極的に推進し、流量の適性化を実現しています。

省エネルギーテーマ	事業所	施策効果
給排水プロアーのインバータ化	秋田	156MWh/年
工水ポンプの台数制御	甲府	110MWh/年
集塵機のインバータ化	鳥海	370MWh/年

温暖化物質の削減

TDKではPFC（パーフルオロカーボン）排出量を2010年度までに1995年度比60%削減することを目指していましたが、洗浄工程を見直した結果、1999年度に73.0%削減することができ、目標を達成しました。これにより削減目標を80%に引き上げることにしました。2000年度は生産増に伴ってPFC排出量は増加しましたが、製品の評価用に使っているPFCについては引き続き代替物質への切り替えを検討しています。

PFC排出量の推移（単位：トン）

（TDK本体および国内連結会社の生産拠点、開発拠点における実績集計）

1995	1996	1997	1998	1999	2000
(2.15) [※]		2.15	1.32	0.58	1.19

※PFC排出量については、1997年のCOP3議定書に基づき1995年を基準年と定めております。TDKでは1997年度より調査を開始したため、1995年度実績は把握できませんでしたが、「電子産業におけるHFC等の排出抑制・削減対策に係る自主行動計画」（日本電子機械工業会）においても、1995年度実績がなく、1997年度実績を1995年度実績と読み替えております。このため、TDKも1997年度実績を1995年度実績と読み替えしました。

化学物質管理

22

独自の化学物質管理基準を設定

TDKでは、1996年に化学物質管理基準を定め、運用してまいりました。この基準の中では、法規制の動向や有害性を勘案し、化学物質を「使用禁止物質」「使用制限物質」「管理物質」の3種に分類しています。

対象とすべき化学物質は、法律の制定・改定などと連動し、適切な見直しを行うとともに、1998年には「使用禁止物質」および「使用制限物質」について暴露されるリスクや環境保護の観点から分類の細分化を実施。グリーン購入における製品中の化学物質含有量調査対象とする化学物質の選定や、製品アセスメントにおける評価項目に反映させています。

化学物質の管理にあたっては、1998年12月より化学物質

検索システムを作成。このシステムはすべての従業員が閲覧可能であり、全社統一の化学物質管理体制構築に寄与しています。

なお、研究開発などでやむを得ず使用禁止物質を使用する場合は、本社安全環境室による厳しい審査を実施。許可を受けた場合でも毎年の更新制となっており、職場の管理体制の向上だけでなく、代替技術・代替物質の開発・導入の促進に結びついています。

この結果、1998年8月には、製造工程で使用されていたトリクロロエチレン、テトラクロロエチレンを全廃いたしました。今後も有害性の高い化学物質は使用しないことを前提として、管理を進めていきます。

化学物質管理システム概念図



化学物質検索システム



PRTR法への対応

2001年4月よりPRTR法[※]が施行されました。TDKでは、社団法人経済団体連合会が1998年より実施しているPRTR調査に自主的に参加。法対応についても、全社説明会を開催するなど万全を期しています。

下記は、PRTR法に基づく対象物質についての大気、水質および土壌への排出量と、廃棄物としての移動量です。TDKでは、化学物質の排出量を2005年度までに1997年度比で20%削減することを目標にしています。2000年度は9.0%の削減となりました。

※ 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律

塩化メチレン全廃への取り組み

TDKは部品洗浄用に塩化メチレンを使用しています。塩化メチレンは、人体の中中枢神経抑制症状を引き起こすなど、有害性が指摘されています。そのためTDKでは、2001年3月までに塩化メチレン全廃の目標を掲げ、代替洗浄溶剤への切り替え、無洗浄化を進めています。2000年度は新たに6事業所で塩化メチレンを全廃しましたが、品質上の問題をクリアできないため、残りの9事業所では依然として塩化メチレンを全廃できていません。今後はこれらの事業所に対しても、2001年9月までに塩化メチレンを全廃する計画で対応を進めています。

TDKのPRTR対象物質（単位:トン）

報告義務事業所数	1997年度				1999年度				2000年度			
	28				28				28			
	取扱量	排出量 ^{※2}	廃棄物としての移動量	リサイクル	取扱量	排出量 ^{※2}	廃棄物としての移動量	リサイクル	取扱量	排出量 ^{※2}	廃棄物としての移動量	リサイクル
トルエン	2351.5	603.7	371.6	1376.2	1393.2	434.4	177.7	700.1	1307.1	460.9	466.0	380.2
バロウム及びその水溶性化合物	8.2	0.0	0.3	0.0	21.3	0.0	0.4	0.2	108.6	0.0	30.4	0.0
ジクロロメタン(塩化メチレン)	838.2	674.5	111.1	52.6	1027.8	831.5	104.7	91.6	979.5	688.0	208.7	82.8
ニッケル化合物	693.3	0.0	37.1	0.0	674.4	0.0	59.3	6.9	771.6	2.6	70.8	32.6
銅水溶性塩(錯塩を除く)	60.4	0.0	6.5	0.0	58.7	0.0	6.0	0.0	1.3	0.0	1.3	0.0
鉛及びその化合物	281.9	0.1	17.1	51.6	231.5	0.0	39.2	24.2	154.6	0.0	29.8	13.0
トリクロロエチレン	80.0	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
キシレン	70.0	24.0	34.0	0.0	64.9	21.5	15.9	8.4	157.9	54.5	74.5	28.9
コバルト及びその化合物	61.8	0.0	4.1	0.0	243.9	0.0	8.6	202.1	302.1	0.0	3.2	191.4
銀及びその水溶性化合物	28.6	0.0	0.6	0.0	15.1	0.0	0.0	3.8	23.3	0.0	0.3	3.5
クロム及び3価クロム化合物	53.3	0.0	0.0	9.8	30.3	0.0	9.0	0.0	27.0	0.0	0.6	1.2
テトラクロロエチレン	13.0	10.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ビスフェノールA中間体 ^{※1}	—	—	—	—	55.0	0.0	4.0	0.0	59.3	0.0	12.2	0.0
マンガン及びその化合物	4282.5	0.0	0.5	0.0	5003.6	0.0	27.1	145.3	3903.4	0.0	16.2	205.4
五酸化バナジウム	4.7	0.0	0.0	0.1	4.7	0.0	0.0	0.1	2.9	0.0	0.6	0.1
ほう素及びその化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	23.0	0.0	0.1	2.6	25.4	0.3	0.9	6.8
N,N-ジメチルホルムアミド	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.8	0.7	0.0	2.4	1.2	0.0	1.2
2-アミノエタノール ^{※1}	—	—	—	—	—	—	—	—	5.0	0.9	3.3	0.0
エチレングリコール ^{※1}	—	—	—	—	—	—	—	—	13.3	9.1	4.2	0.0
ヒドラジン ^{※1}	—	—	—	—	—	—	—	—	1.0	0.0	1.0	0.0
フタル酸ジ-n-ブチル ^{※1}	—	—	—	—	—	—	—	—	5.9	4.0	1.9	0.0
フタル酸n-ブチル=ベンジル ^{※1}	—	—	—	—	—	—	—	—	39.3	26.8	12.5	0.0
亜鉛の水溶性化合物 ^{※1}	—	—	—	—	—	—	—	—	49.3	0.0	0.0	0.0
合計	8827.3	1372.3	605.9	1490.3	8848.8	1288.2	452.7	1185.2	7940.2	1248.3	938.4	947.1
1997年度比	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.2%	93.9%	74.7%	79.5%	90.0%	91.0%	154.9%	63.6%

・調査はTDK本体および国内連結会社の生産拠点、研究開発拠点について行い、対象化学物質についてはPRTR法に準拠しました。

・取扱量や排出量などの算出は、「電気・電子業界におけるPRTRガイドライン」を参考に、環境マネジメントシステムの活動の中で得られた物量情報をもとに行いました。

※1 ビスフェノールA中間体については1999年度分から、また2-アミノエタノール以下6物質については2000年度分から集計を開始しました。 ※2 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

地球環境保全活動

24

水の有効利用

TDKの各事業所では、洗浄工程や設備の冷却などに水を使用しています。この水資源を有効に活用するために、次のような取り組みを行っています。

甲府工場では、これまで生産設備の冷却に地下水を利用していましたが、新規設備導入時に純水による冷却水の循環化を取り入れたことで、地下水の利用を140,000m³/月削減しました。また、成田工場では焼成炉の冷却水を循環式に変更することで、300m³/月削減しました。その他、テクニカルセンターでは廃水処理後の水をビル空調の冷温수에、静岡工場でも同様に加工工程の洗浄水や生産設備の冷却水として利用するなど、様々な形で取り組んでいます。



焼成炉の冷却水循環装置（成田工場）

容器包装に関する取り組み

2000年4月より拡大施行された容器包装リサイクル法^{※1}に対応するとともに、各種容器包装材料の削減・再使用を推進しています。また、2001年4月より施行の資源有効利用促進法^{※2}の改正に伴い、事業者には「紙」「プラスチック」に関する識別表示が義務化されましたが、TDKでは対象となる記録メディア製品において対応しました。

※1 容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律

※2 資源の有効な利用の促進に関する法律



TDK製品に付いている識別表示

物流段階における取り組み

三隈川工場では、PETの再資源化業者への輸送に鉄道コンテナを利用。トラック輸送に比べて、CO₂排出量の削減に効果を上げています。また、各事業所でトラックの空輸送をなるべく少なくしたり、梱包材の通い化を進めています。

焼却炉の全廃

TDKでは、廃棄物適正処理対策の一環として、工場から排出される可燃ゴミの焼却施設を設置していました。しかしダイオキシン問題の顕在化に伴い、順次廃止をすすめ、2001年2月に全廃しました（国内製造事業所）。

廃止台数は次の通りです。

- ・小型焼却炉 5基
- ・ダイオキシン対策特別措置法対象施設 6基

PCB機器の保管・管理

PCB（ポリ塩化ビフェニール）使用機器の製造中止措置がとられた1972年以降、廃棄物処理法に準拠してPCB使用機器を保管・管理しています。

TDKの保管状況は、2001年3月現在で電力用コンデンサが77台、蛍光灯安定器が147台（国内製造事業所）となっております。保管・管理にあたっては、専用の容器に保管するなど、万全を尽くしております。



蛍光灯安定器の保管状況

環境法規の遵守

環境法規の遵守は最低限の絶対条件です。TDKでは排出規制の遵守、届出・報告・表示・記録の徹底を環境マネジメントシステムの中で運用してきました。

2000年度は日本国内において、大気・水質など環境各項目とも、法基準を遵守しており問題はありませんでした。今後も、監視測定強化や設備の定期点検・改善など、継続して実施していきます。

土壌浄化対策

塩素系有機溶剤の浄化対策を実施していた1事業所については、汚染濃度の低下に伴って浄化速度が遅くなり、浄化終了には至っておりません。現在、新規追加対策を検討中です。

また、新たに過去に原材料廃材を埋め立てていた事業所が判明し、調査したところ、砒素の環境基準0.01mg/リットルに対し、土壌で0.013mg/リットル、試掘穴の溜まり水で0.04mg/リットルが検出されました。事業所周辺への汚染はありませんでしたが、汚染拡散を防止するために、廃材を掘り返して処分しました。

（参考：排水基準0.1mg/リットル）

海外での取り組み

26

展開はワールドワイドに

TDKでは、海外事業所においてもISO14001の認証取得を含めた環境保全活動を順次進めています。既に1999年度までに12の事業所でISO14001の認証を取得し、2000年度はさらに4事業所で認証を取得しました。ただし一部生産の見直しに起因する工程移管等の原因で遅れが生じており、これらの拠点についても2001年12月までに認証を取得する計画です。

TREでゼロエミッション達成

TRE[※]では、1998年にルクセンブルグ商工会議所より環境保護表彰を受賞するなど、これまで先進的な活動に取り組んできました。2000年度はCD-Rの製造工程から発生するテトラフルオロプロパンの大気放出防止、ジアセトンアルコールの再利用、ポリカーボネートの再利用などに取り組んだ結果、2001年3月にゼロエミッションを達成しました。これにより、ゼロエミッションへの取り組みは環境問題だけでなくコスト改善にも有効であり、企業活動にとって有益であることが確認されました。今後も材料の再利用を継続して推進していきます。

※TDK Recording Media Europe S.A.

TCUが全米環境功労賞を受賞

TCU[※]では、環境法規制を遵守するだけでなく、製造工程に使用するメタノールの再利用やメッキ工程から発生する汚泥の削減などを進めてきました。この自発的努力がアメリカ環境保護局（EPA）に認められ、2000年12月に全米環境功労賞を受賞しました。

※ TDK Components U.S.A., Inc.



内部監査員養成研修 (TDK Dalian Corporation)



ガス吸収・中和装置 (TRE)

コンクリート添加用の骨材に利用できる廃材 (TRE)



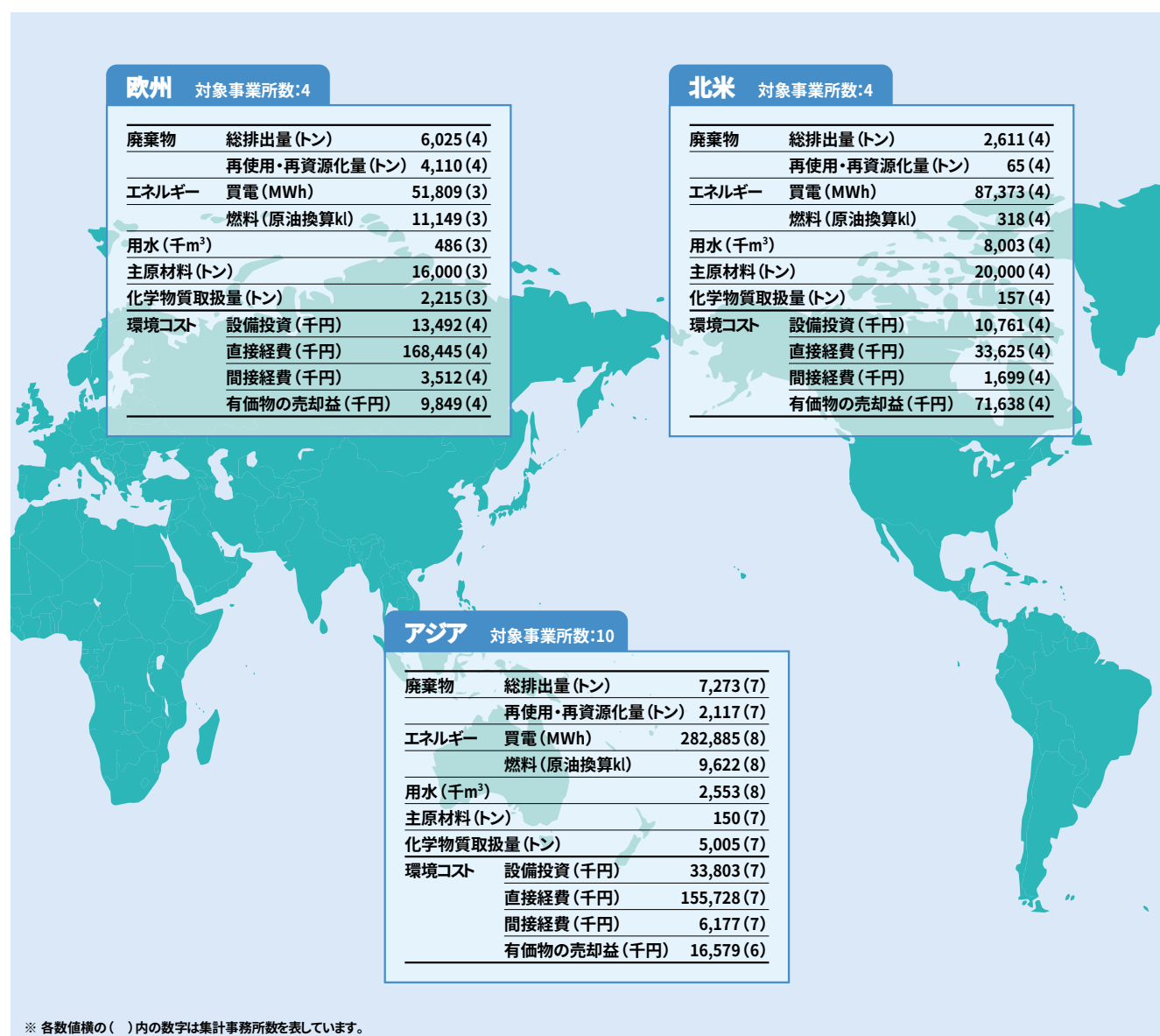
全米環境功労賞受賞 (TCU)

海外製造事業所の環境負荷と環境コスト

TDKでは海外生産比率が年々上昇しており、2000年度は56.8%となりました。1999年度には海外の製造事業所を対象に大気、水質に関する調査を実施し、一部事業所の環境負荷データを「TDK環境報告書2000」にて公開いたしました。また、2000年度には大気、水質に加えて廃棄物、

エネルギー、化学物質、環境コストに関する情報収集を行いました。そのデータは以下の通りです。

今後は、この結果をよりグローバルな環境管理に展開するため、調査内容の継続的な見直しに努めていきます。



社員教育、啓蒙

28

環境マネジメントシステムに基づく教育

環境問題への対応には、従業員一人ひとりが幅広い知識を持ち、個々の役割の中で実行に移していく必要があります。そこでTDKでは事業所の環境マネジメントシステムにおいて一般社員対象に、あるいは個別に専門教育を実施しています。今後はこれらの教育を通じて、一人ひとりがより効果的な環境保全活動に取り組めるよう、推進していきます。

環境講話を実施

従業員が今後の環境への取り組みを考える目的で、2000年10月に環境講話を開催しました。内容は、環境活動に関する著名な講師を招いての講演で、最新の環境情報についての知識を得ることができました。

イントラネットの有効活用

各事業所では、イントラネットを活用して環境掲示板を作成。事業所の環境活動やマニュアルを電子文書化し、不明点はすぐに調べられるようにしました。また、本社安全環境室では、全社の環境活動やデータ、法律の改正情報などを開示し、全社的な有効活用に結びつけています。

全社の情報発信

各事業所における啓蒙活動を全社規模で展開するため、社内環境情報誌「TDK ECOPLUS」を発行。全社動向や事業所の環境活動、最近のトピックスなどを紹介しています。また、社内広報誌「TDK TIMES」においても、環境問題に関するイメージ写真を掲載し、従業員の意識向上のための情報を提供しています。



各事業所の教育資料



環境講話



イントラネットの有効活用



TDK ECOPLUS



TDK TIMES

社会貢献活動

TDKは「良き企業市民」でありたいと考えています。企業の発展は地域社会や国際社会との協調なくしてはありえません。その考えのもと、TDKでは各事業所ごとにさまざまなコミュニケーション活動や社会貢献活動を行っています。

29

「日本野鳥の会」にカセットテープを提供

財団法人日本野鳥の会と三菱地所株式会社では、カセットテープ「野鳥と自然のお便り」を2000年8月より発行しています。これは、目の不自由な方々に小鳥のさえずりや自然情報などを楽しんでいただくために社会貢献事業として行われているもので、カセットテープはTDKが提供し、完成したカセットテープは、全国の盲学校や点字図書館等の施設に無償で配布されています。



緑化活動、清掃活動を定期的実施

TDKでは、事業所の景観の改善や周辺の清掃、隣接地域の河川や海岸の美化運動などに社員がボランティアで参加しています。



平尾山での植林活動
(長野県)



毎月実施している
クリーンキャンペーン
(甲府工場)

地域と一体となった活動

TDKは秋田県に多数の事業所を有しています。これらの事業所では、早期のISO14001の認証取得をはじめ、環境保全に前向きな取り組みを続けており、地域への貢献活動にも積極的です。こうした活動が高く評価され、1999年6月には秋田県環境大賞を受賞しました。

(1)「鳥海山にブナを植える会」に、1994年の設立当時からボランティア活動の一つとして毎年参加しています。1999年には10,000本の植樹を達成し、2000年10月の植樹祭では2,026本を植樹しました。

(2)地元海岸の「クリーンアップ作戦」に社員が自発的に参加しています。

(3)TDKの取り組みをPR。地元企業のISO14001認証取得も積極的に支援しています。



鳥海山にブナを植える会



PR活動(本荘由利テクノネットワーク)



海岸クリーンアップ作戦(仁賀保町)

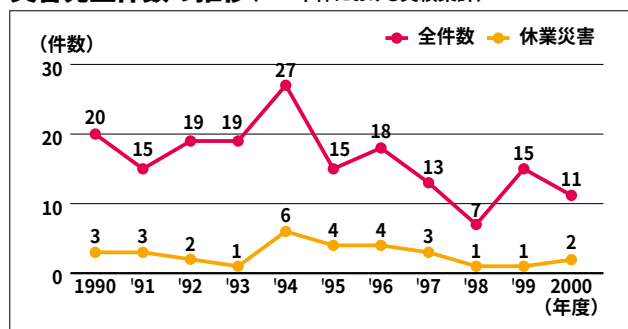
安全衛生

30

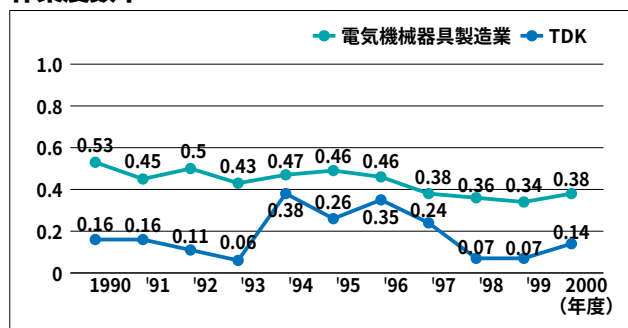
災害発生状況の推移

TDKにおける労働災害発生状況は、下図のとおり推移しております。労働災害の最近の傾向としては、機械などによる挟まれ災害、巻き込まれ災害など生産現場での労働災害は減少傾向にあります。一方で駐車場や構内道路での転倒など生産現場以外での労働災害が発生するなど、労働災害の形態が多様化しております。

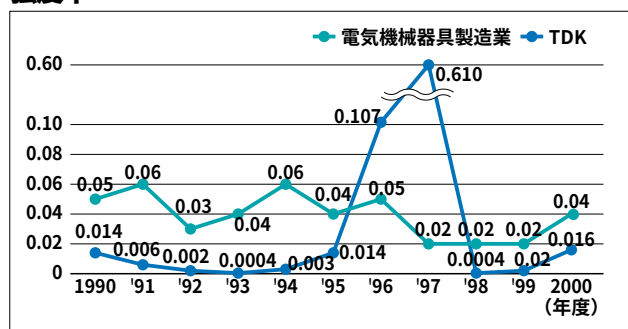
災害発生件数の推移 (TDK本体における実績集計)



休業度数率



強度率



主な安全衛生活動

各事業所では、毎月の「Sの日点検」や、年2回の安全衛生自己診断を実施し、職場の改善を促す仕組みとなっております。また、労働災害の発生状況に応じ、随時講習会を行なうなど、職場での安全意識の向上に努めております。また、秋田地区では冬道体験講習会を警察署の指導のもと、1月から2月にかけて毎年開催。スラローム、急制動、衝突体験などの研修内容は参加者から好評を得ています。



有材溶剤取扱講習会



冬道体験講習会

OHSMSについて

TDKは、労働災害のリスクを一層低減させるためには、労働安全衛生マネジメントシステム (OHSMS) の導入が有効であると考えています。TDKは2000年7月にOHSMS導入を決定。OHSAS18001※に準拠した、全社共通のシステム構築を行ないました。2000年度はOHSMS導入教育の実施方法、OHSMSの重要な構成要素である法的要求事項の特定手法、リスクアセスメントの評価基準などの作成、予行を行ないました。今後はマニュアルの作成、規程類の整備、OHSMSの導入を円滑に行なうための各種教育を行なう予定です。

※ Occupational Health and Safety Assessment Series

TDKの環境保全活動の経緯

1970年	開発研究所で廃水処理技術を開発
	フェライト電極を使った凝集処理
1975年	環境保全グループ設立
	全社行政開始
1976年	生産技術部、安全環境課（本社）と事業部組織整備
1978年	安全環境保全管理規程制定（1987年、環境保全管理規程の分離制定）
1980年	環境診断（本社）の開始（1986年、環境保全自己診断に移行/年1回・本社立会）
1987年	省エネ対策室設置
1990年	環境保全マニュアル発行
	安全衛生マニュアル発行
	省エネマニュアル発行
1992年	環境保全対策室設置（地球環境問題への対応を推進）
1993年	TDK環境ボランティアプラン策定（1995年、見直し、海外を含め配布）
1995年	安全環境室設置
	ISO14001導入を検討・決定
1996年	化学物質の統合管理開始
1997年	三隈川工場ISO14001認証取得（TDKグループ第一号）
1998年	TDK本体のすべての生産拠点・研究開発拠点にてISO14001認証取得完了
	トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン全廃
1999年	製品アセスメント導入（国内事業所）
	グリーン購入開始（国内事業所）
	鉛フリー化プロジェクト発足
	「TDK環境報告書1999」発行
2000年	ゼロエミッションプロジェクト発足
	国内TDKグループすべての生産拠点・研究開発拠点にてISO14001認証取得完了
	社内向け環境情報誌「TDK ECOPLUS」創刊
	「TDK環境報告書2000」発行
2001年	2月 焼却炉を全廃（国内製造事業所）
	3月 「TDKグリーン購入ガイド（オフィス編）」発行
	3月 鉛フリーはんだの技術開発完了
	4月 環境会計の試験導入開始

TDKでは、環境報告書や新聞などの多彩な手段によって、環境保全活動に関する情報開示を行っています。また、ステークホルダー(企業活動に関わる関係者)の皆様からのご意見・ご質問に対し、双方向のコミュニケーションが行えるよう、努めています。

●TDK Techno Forum 2000

2000年5月にテクニカルセンターで開催された「TDK Techno Forum 2000」において、環境に配慮した製品を公開しただけでなく、環境への取り組みについてもPRしました。



TDK Techno Forum 2000

●環境広告

TDKの環境活動をより多くの方にご理解いただくために、広告や広報活動を行い、各種媒体に掲載しています。



日本工業新聞2000年9月21日付



日経エコロジー2000年9月号

●環境報告書

1999年度版を初めて発行して以来、TDKでは環境報告書を毎年発行しています。グローバル化に対応するため、英語版も発行しています。



●ホームページ

環境報告書はTDKのホームページにおいても閲覧可能です。また、主な環境関連ホームページからアクセスできるようリンクを張り、より多くの方が閲覧できるようにしています。今後はハピックや地域の活動も紹介できるよう、さらに充実させていく考えです。



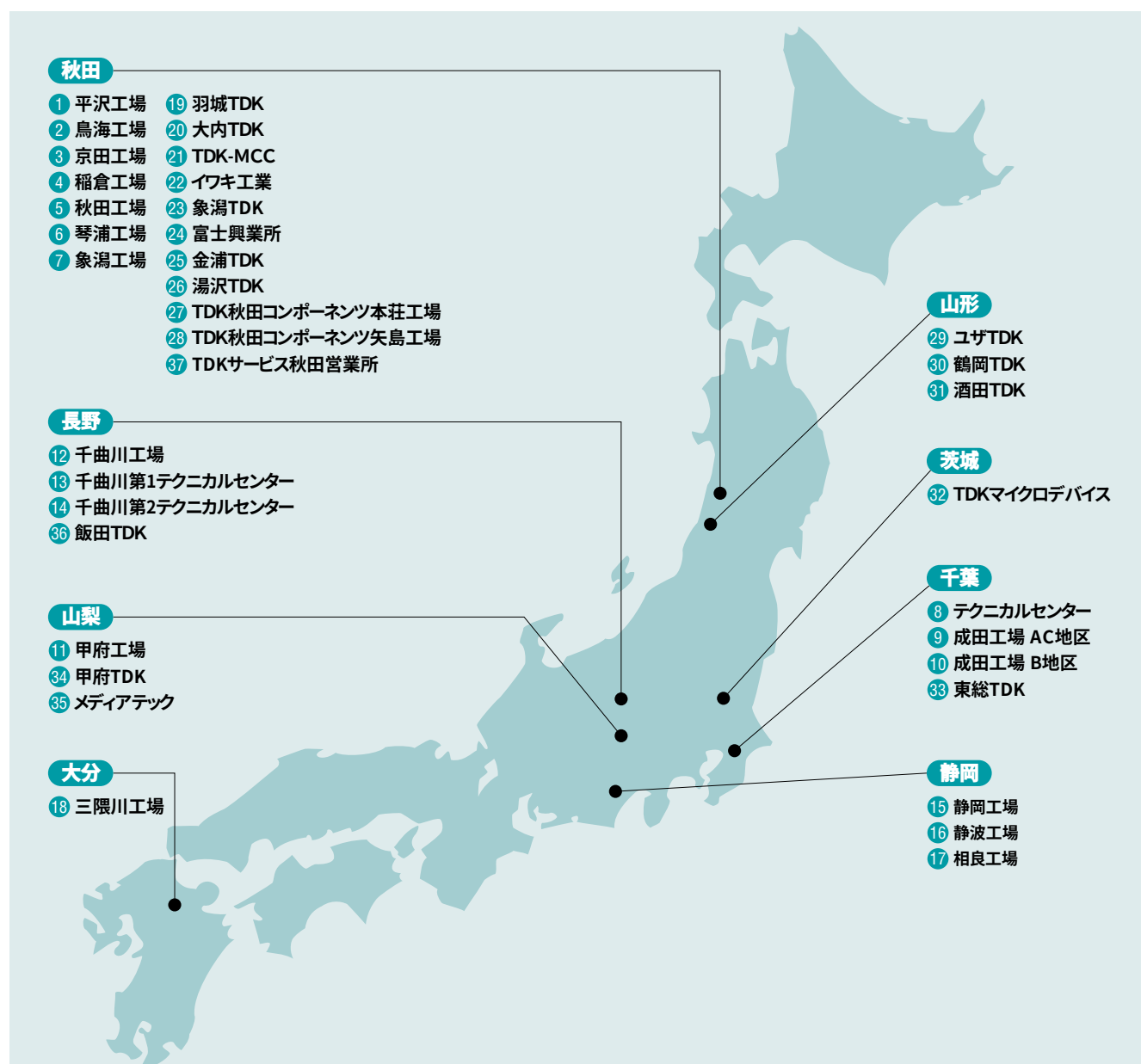
「TDK環境報告書2000」アンケートに対する結果

ご協力ありがとうございました。

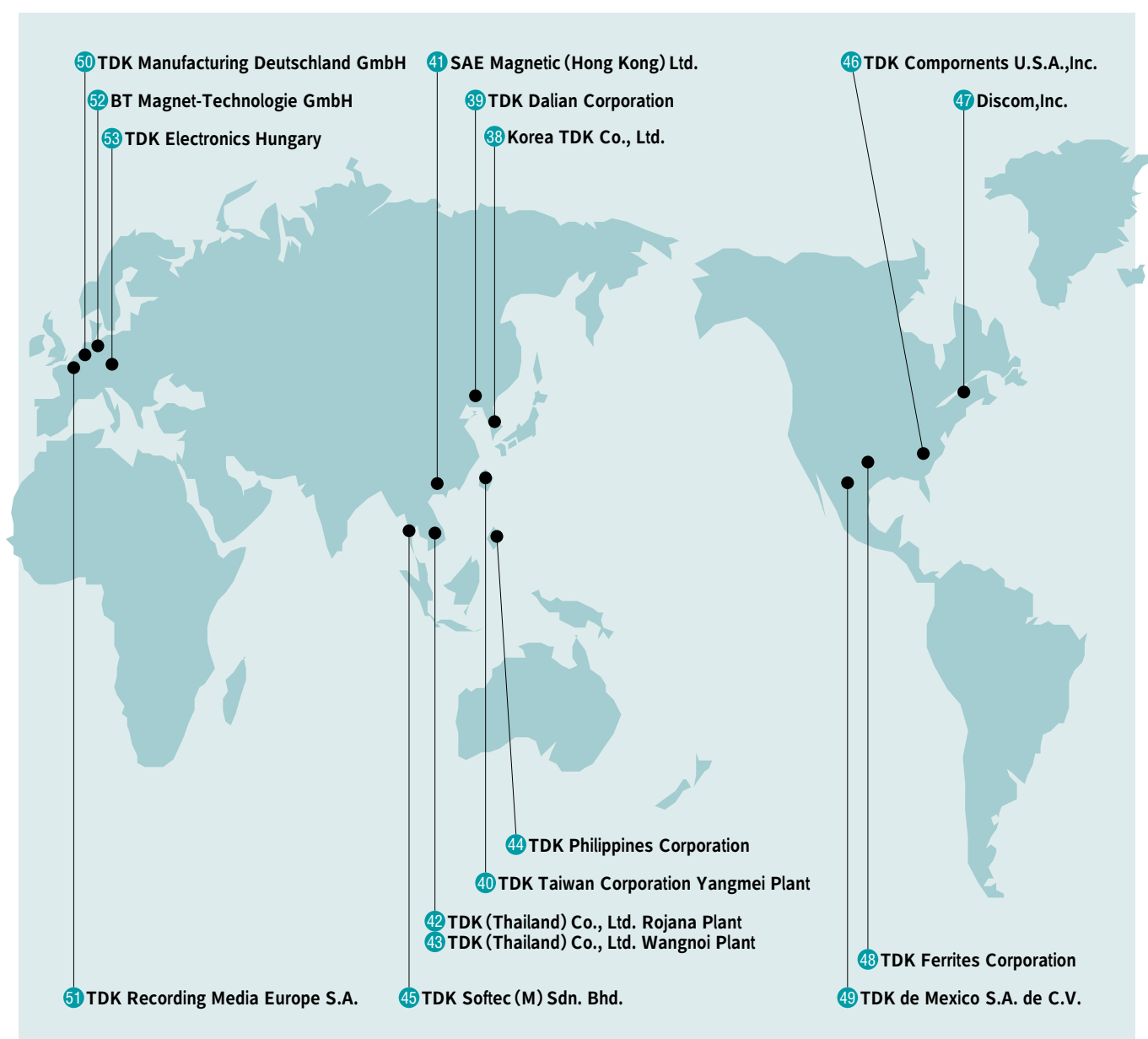
1.TDKの環境保全活動について、どう感じになりましたか。	評価できる	92%	普通	8%	評価できない	0
2.「TDK環境報告書2000」をどう評価されますか、	よい	92%	普通	8%	よくない	0
3.「TDK環境報告書2000」の情報は適正でしたか。	少ない	8%	適当である	84%	多い	8%
4.「TDK環境報告書2000」は、読みやすいと思われましたか。	読みやすい	83%	普通	17%	読みにくい	0

INDEX

TDKの主な環境負荷	36	12 千曲川工場	43
ISO14001認証取得事業所	37	13 千曲川第1テクニカルセンター	44
事業所における主な環境負荷データ		14 千曲川第2テクニカルセンター	44
1 平沢工場	38	15 静岡工場	45
2 鳥海工場	38	16 静波工場	45
3 京田工場	39	17 相良工場	45
4 稲倉工場	39	18 三隈川工場	46
5 秋田工場	40	19 羽城TDK	47
6 琴浦工場	40	20 大内TDK	47
7 象潟工場	41	21 TDK-MCC	48
8 テクニカルセンター	41	22 イワキ工業	48
9 成田工場AC地区	42	23 象潟TDK	49
10 成田工場B地区	42	24 富士興業所	49
11 甲府工場	43	25 金浦TDK	50



26	湯沢TDK	50	40	TDK Taiwan Corporation Yangmei Plant	58
27	TDK秋田コンポーネンツ本荘工場	51	41	SAE Magnetic (Hong Kong) Ltd.	58
28	TDK秋田コンポーネンツ矢島工場	51	42	TDK (Thailand) Co., Ltd. Rojana Plant	59
29	ユザTDK	52	43	TDK (Thailand) Co., Ltd. Wangnoi Plant	59
30	鶴岡TDK	52	44	TDK Philippines Corporation	60
31	酒田TDK	53	45	TDK Softec (M) Sdn. Bhd.	60
32	TDKマイクロデバイス	53	46	TDK Compornents U.S.A.,Inc.	61
33	東総TDK	54	47	Discom,Inc.	61
34	甲府TDK	54	48	TDK Ferrites Corporation	62
35	メディアテック	55	49	TDK de Mexico S.A. de C.V.	62
36	飯田TDK	55	50	TDK Manufacturing Deutschland GmbH	63
37	TDKサービス秋田営業所	56	51	TDK Recording Media Europe S.A.	63
38	Korea TDK Co., Ltd.	57	52	BT Magnet-Technologie GmbH	64
39	TDK Dalian Corporation	57	53	TDK Electronics Hungary	64



TDKの主な環境負荷※1

36

			単位	1998年度	1999年度	2000年度
TDK本体	原料の調達	主原材料※2	トン	55,000	52,000	49,000
	資源エネルギーの調達	用水※3	千m ³	3,654	3,498	3,512
		電力※4	MWh	440,767	455,591	449,710
		燃料※5	kl	42,007	44,022	44,208
	環境負荷の発生量	排水※6	千m ³	-	2,969	3,056
		BOD※7	kg	-	6,584	9,741
		SS※7	kg	-	5,405	7,758
		鉄※7	kg	-	667	806
		亜鉛※7	kg	-	261	180
		CO ₂ ※8	トン-C	72,304	76,395	75,969
		NOx※9	トン	-	193	186
		SOx※9	トン	-	23	24
		ばいじん※9	トン	-	12	4
	廃棄物の排出量	汚泥	トン	20,152	18,244	21,764
		廃油	トン	11,848	9,964	7,206
		廃プラスチック	トン	2,994	2,822	3,551
		廃酸	トン	1,736	1,972	1,451
	再資源化量	汚泥	トン	4,450	6,030	7,077
		廃油	トン	10,433	9,126	6,468
		廃プラスチック	トン	2,040	2,099	1,784
		廃酸	トン	49	50	102
国内連結会社	資源エネルギーの調達	用水※3	千m ³	580	660	731
		電力※4	MWh	149,366	169,477	191,960
		燃料※5	kl	12,718	13,863	18,320
	環境負荷の発生量	排水※6	千m ³	-	540	674
		BOD※7	kg	-	8,353	17,103
		SS※7	kg	-	6,709	8,017
		鉄※7	kg	-	138	138
		亜鉛※7	kg	-	23	44
		CO ₂ ※8	トン-C	23,774	26,913	32,491
		NOx※9	トン	-	171	286
		SOx※9	トン	-	8	10
		ばいじん※9	トン	-	7	14
	廃棄物の排出量	汚泥	トン	1,603	3,106	2,079
		廃油	トン	6,220	6,214	7,315
		廃プラスチック	トン	2,769	2,933	3,582
		廃酸	トン	194	202	240
	再資源化量	汚泥	トン	74	2	462
		廃油	トン	3,446	2,703	3,035
		廃プラスチック	トン	821	1,131	2,184
		廃酸	トン	0	0	0

※1:生産拠点、研究開発拠点における実績集計です。
※2:資材購入実績より算出しました。
※3:工水、地下水を含みます。
※4:購入電力量です。(燃料を使用して自家発電した数値は含みません)
※5:エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則に基づき原油換算した数値です。
※6:排水量実績のない事業所は用水実績を排水量とみなしました。
※7:[排水量実績×水質測定結果の平均値]より算出しました。
※8:電力、燃料をCO₂換算しています。なお、CO₂排出係数は電機・電子業界「地球環境保全のための自主行動計画」の1999年度調査における数字を使用しています。
※9:燃料使用量より算出しました。なお、NOx及びばいじんについては、ばい煙発生施設を対象として集計しております。

ISO14001認証取得一覧 (2001年4月末現在)

国内		
事業所	住所	登録日
三隈川工場	大分県日田市	1997. 4.21
湯沢 TDK	秋田県湯沢市	1997.10.17
鳥海/平沢/稲倉/京田工場 ^{※1}	秋田県由利郡仁賀保町	1998. 2.13
成田工場 B地区	千葉県成田市	1998. 3.20
成田工場 AC地区	千葉県成田市	1998. 3.20
TDK-MCC	秋田県由利郡仁賀保町	1998. 4.27
甲府工場／甲府TDK	山梨県中巨摩郡甲西町	1998. 6. 5
メディアテック	山梨県中巨摩郡玉穂町	1998. 6.26
秋田工場	秋田県由利郡仁賀保町	1998. 6.29
飯田 TDK	長野県飯田市	1998. 7.17
象潟工場	秋田県由利郡象潟町	1998. 7.17
千曲川工場	長野県佐久市	1998. 7.28
千曲川テクニカルセンター	長野県佐久市	1998. 7.31
イワキ工業	秋田県由利郡岩城町	1998. 9.11
羽城 TDK	秋田県南秋田郡昭和町	1998. 9.14
酒田 TDK	山形県酒田市	1998.10. 9
象潟 TDK	秋田県由利郡象潟町	1998.11. 4
静岡/相良/静波工場	静岡県榛原郡相良町	1998.11.20
東総TDK	千葉県八日市場市	1998.12.11
テクニカルセンター	千葉県市川市	1998.12.25
金浦 TDK	秋田県由利郡金浦町	1999. 1. 4
大内 TDK	秋田県由利郡大内町	1999. 1.20
TDK秋田コンポーネンツ	秋田県本荘市	1999. 3.29
鶴岡 TDK	山形県鶴岡市	1999. 4.21
ユザTDK	山形県飽海郡遊佐町	1999. 6. 1
北茨城サイト	茨城県北茨城市	2000. 4.23
本社	東京都中央区	2001. 3. 9

※1:鳥海/平沢工場と稲倉/京田工場は、2001年2月16日に認証を一本化しました。

海外		
事業所	国名	登録日
TDK (Malaysia) Sdn.Bhd.	Malaysia	1998. 4.17
TDK Compornents U.S.A.,Inc. ^{※2}	U.S.A	1999. 4.22
Korea TDK Co., Ltd.	Korea	1999. 6.19
TDK (Thailand) Co.,Ltd.	Thailand	1999. 8. 6
TDK Recording Media Europe S.A.	Luxembourg	1999.11. 4
TDK Electronics Corporation California Plant	U.S.A.	1999.11. 5
Discom, Inc.	U.S.A.	1999.11.17
TDK Taiwan Corporation Yangmei Plant	Taiwan	1999.12. 7
SAE Magnetics (H.K.) Ltd.	Hong Kong	1999.12.15
TDK Ferrites Corporation	U.S.A.	2000. 1.17
TDK Philippines Corporation	Philippines	2000. 2.23
TDK (Thailand) Co.,Ltd.Wangnoi Plant	Thailand	2000. 7. 7
TDK Electronics Hungary Ltd.	Magyarorszag Hungary	2001. 2.14
TDK Xiamen Co.,Ltd.	China	2001. 3.28
TDK Dalian Corporate	China	2001. 4.29

※2:TDK Electronics Corporation Georgia Plantと2001年2月12日に認証を一本化しました。

事業所における環境負荷データ

平沢工場	
●所在地	秋田県由利郡仁賀保町平沢字画書面15
●生産品目	金属電極
●土地面積	1.0 万m ²
●建物延床面積	0.9 万m ²
●完成年月	1940年7月
●従業員数	710名

●大気<該当設備なし>

●水質(水質汚濁防止法、県条例)

項目	規制値	実績	
		平均値	最大値
pH	5.0～9.0	7.4	6.9～7.9 ^{※1}
COD	60	11	30
SS	120	8	74
n-ヘキサン(鉱油)	5	ND	ND
フェノール	0.5	ND	ND
銅	1	0.02	0.07
亜鉛	5	0.12	0.91
溶解性鉄	10	0.74	3.2
溶解性マンガン	10	0.12	0.6
フッ素	15	ND	ND
カドミウム	0.05	ND	0.005
鉛	0.1	ND	0.01

※単位pH:なし。その他:mg/l[※] ※pH:水素イオン濃度 ※COD:化学的酸素要求量
※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。
※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質<平沢、鳥海、京田、稲倉工場>

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての移動量	リサイクル
トルエン	2.7	2.7	0.0	0.0
ニッケル化合物	487.8	0.0	40.0	29.1
鉛及びその化合物	26.6	0.0	2.7	6.3
キシレン	1.4	1.4	0.0	0.0
コバルト及びその化合物	2.7	0.0	0.4	0.3
マンガン及びその化合物	3063.2	0.0	14.6	119.4

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

鳥海工場	
●所在地	秋田県由利郡仁賀保町平沢字山王森15
●生産品目	フェライトコア
●土地面積	5.0 万m ²
●建物延床面積	2.7 万m ²
●完成年月	1970年4月
●従業員数	(平沢工場に含む)

●大気(大気汚染防止法、県条例)

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
ボイラー ^{※4} (1基)	灯油	硫黄酸化物	2.8	ND
		窒素酸化物	180	48
		ばいじん	0.3	ND

※1 単位硫黄酸化物:Nm³/hr 窒素酸化物:ppm ばいじん:g/Nm³
※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。 ※3 実績は全対象施設の年間の最大値です。 ※4 灯油ボイラーは県条例による対象施設です。

●水質(水質汚濁防止法、県条例)

項目	規制値	実績	
		平均値	最大値
pH	5.8～8.6	7.5	7.1～8.0 ^{※1}
BOD	160(120)	7	22
SS	120	7	22
n-ヘキサン(鉱油)	5	ND	1
フェノール	5	ND	0.1
銅	1	0.02	0.12
亜鉛	5	0.15	0.63
溶解性鉄	10	0.88	3.1
溶解性マンガン	10	0.09	0.14
フッ素	15	ND	0.2
大腸菌群数	3000	517	950
カドミウム	0.05	ND	ND
鉛	0.1	0.01	0.09

※単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/l[※] ※pH:水素イオン濃度
※BOD:生物化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。
※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質<平沢工場に含む>

京田工場

●所在地	秋田県由利郡仁賀保町平沢字京田20
●生産品目	フェライトコア
●土地面積	3.9 万m ²
●建物延床面積	2.5 万m ²
●完成年月	1959年7月
●従業員数	(平沢工場に含む)

●大気＜該当設備なし＞

●水質（水質汚濁防止法、県条例）

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	5.8～8.6	7.5	7.1～7.9 ^{※1}
BOD	160(120)	ND	7
SS	120	5	30
n-ヘキサン(鉱油)	5	1.2	1.2
フェノール	5	ND	ND
銅	1	ND	0.03
亜鉛	5	0.41	3.5
溶解性鉄	10	1.5	5.8
溶解性マンガン	10	0.49	1.9
フッ素	15	ND	ND
大腸菌群数	3000	ND	ND
カドミウム	0.05	ND	ND
鉛	0.1	0.01	0.02

※単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/ℓ ※pH:水素イオン濃度
 ※BOD:生物化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。
 ※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質＜平沢工場に含む＞

稲倉工場

●所在地	秋田県由利郡象潟町立石4番3
●生産品目	フェライトコア、トナー、磁性膜部品
●土地面積	13.5 万m ²
●建物延床面積	2.6万m ²
●完成年月	1982年7月
●従業員数	(平沢工場に含む)

●大気（大気汚染防止法、県条例）

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
乾燥炉(10基)	灯油	硫黄酸化物	4.25	ND
		窒素酸化物	230	33
		ばいじん	0.2	0.11
ボイラー ^{※4} (2基)	灯油	硫黄酸化物	4.1	ND
		窒素酸化物	260	76
		ばいじん	0.3	ND

※1 単位硫黄酸化物:Nm³/hr 窒素酸化物:ppm ばいじん:g/Nm³
 ※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。 ※3 実績は全対象施設の年間での最大値です。 ※4 灯油ボイラーは県条例による対象施設です。

●水質（水質汚濁防止法、県条例）

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	5.0～9.0	7.6	7.1～8.1 ^{※1}
COD	30	2	18
SS	70	ND	24
n-ヘキサン(鉱油)	5	ND	ND
フェノール	5	ND	ND
銅	1	0.01	0.12
亜鉛	5	0.23	0.9
溶解性鉄	10	0.44	3.3
溶解性マンガン	10	0.24	1.6
フッ素	15	ND	ND
カドミウム	0.05	ND	ND
鉛	0.1	ND	ND

※単位pH:なし その他:mg/ℓ ※pH:水素イオン濃度 ※COD:化学的酸素要求量
 ※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。
 ※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質＜平沢工場に含む＞

秋田工場				
●所在地	秋田県由利郡仁賀保町平沢字立沢200			
●生産品目	セラミック原材料			
●土地面積	6.5 万m ²			
●建物延床面積	3.6 万m ²			
●完成年月	1979年12月			
●従業員数	960名			

●大気(大気汚染防止法、県条例)

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
ボイラー(6基)	LPG	硫黄酸化物	1.19	0.009
		窒素酸化物	150	120
		ばいじん	0.1	0.01
ボイラー ^{※4} (1基)	灯油	硫黄酸化物	2.03	0.002
		窒素酸化物	260	67
		ばいじん	0.3	ND
ディーゼル機関(2基)	A重油	硫黄酸化物	10.9	0.132
		窒素酸化物	950	920
		ばいじん	0.1	0.02

※1 単位硫黄酸化物:Nm³/hr 窒素酸化物:ppm ばいじん:g/Nm³
※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。 ※3 実績は全対象施設の年間での最大値です。 ※4 灯油ボイラーは県条例による対象施設です。

●水質(水質汚濁防止法、県条例)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	5.8～8.6	6.9	6.4～7.4 ^{※1}
BOD	30	5	6
SS	70	5	5
n-ヘキサン(鉱油)	5	1.3	2.2
フェノール	5	0.1	0.1
銅	1	0.01	0.03
亜鉛	5	0.06	0.44
溶解性鉄	10	0.09	0.54
溶解性マンガン	10	0.02	0.27
フッ素	15	0.2	0.2
大腸菌群数	3000	46	77
シアン	0.1	0.02	0.02
鉛	0.1	0.01	0.03
1,1,1,トリクロロエタン	3	0.001	0.001
トリクロロエチレン	0.3	0.001	0.001
テトラクロロエチレン	0.1	0.001	0.001
ジクロロメタン	0.2	0.02	0.02

※単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/ℓ ※pH:水素イオン濃度
※BOD:生物化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度
※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての 移動量	リサイクル
トルエン	74.2	41.5	32.6	0.0
ニッケル化合物	94.2	0.0	0.0	0.0
鉛及びその化合物	72.3	0.0	6.0	0.0
キシレン	1.4	0.7	0.7	0.0
銀及びその水溶性化合物	9.9	0.0	0.0	0.0
マンガン及びその化合物	7.3	0.0	0.0	0.0
亜鉛の水溶性化合物	49.3	0.0	0.0	0.0

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

琴浦工場				
●所在地	秋田県由利郡仁賀保町平沢字古里38			
●生産品目	セラミック原材料			
●土地面積	2.6 万m ²			
●建物延床面積	1.7万m ²			
●完成年月	1953年3月			
●従業員数	(秋田工場に含む)			

●大気(大気汚染防止法、県条例)

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
ボイラー(1基)	LPG	硫黄酸化物	1.01	ND
		窒素酸化物	150	82
		ばいじん	0.1	ND
ボイラー ^{※4} (2基)	灯油	硫黄酸化物	2.08	ND
		窒素酸化物	250	77
		ばいじん	0.3	0.01

※1 単位硫黄酸化物:Nm³/hr 窒素酸化物:ppm ばいじん:g/Nm³
※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。 ※3 実績は全対象施設の年間での最大値です。 ※4 灯油ボイラーは県条例による対象施設です。

●水質(水質汚濁防止法、県条例)

項目	規制値	実績(琴浦SD工場)		実績(琴浦工場)	
		平均値	最大値	平均値	最大値
pH	5.8～8.6	7.0	6.7～7.7 ^{※1}	7.3	6.8～7.9 ^{※1}
BOD	160(120)	5	11	5	17
SS	70	5	5	6	21
n-ヘキサン(鉱油)	5	1	1	1.3	2.1
フェノール	5	0.1	0.1	0.1	0.1
銅	1	0.01	0.02	0.01	0.03
亜鉛	5	0.03	0.09	0.1	0.42
溶解性マンガン	10	0.01	0.03	0.05	0.1
フッ素	15	0.2	0.2	0.2	0.2
大腸菌群数	3000	341	500	57	140
鉛	0.1	0.01	0.02	0.01	0.01
1,1,1,トリクロロエタン	3	0.001	0.001	0.001	0.001
トリクロロエチレン	0.3	0.001	0.001	0.001	0.001
テトラクロロエチレン	0.1	0.001	0.001	0.001	0.001
ジクロロメタン	0.2	0.02	0.02	0.02	0.02

※単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/ℓ ※pH:水素イオン濃度
※BOD:生物化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度
※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質<該当なし>

象潟工場	
●所在地	秋田県由利郡象潟町沖の田1-1
●生産品目	コイル、機械装置
●土地面積	4.8万m ²
●建物延床面積	1.9万m ²
●完成年月	1959年12月
●従業員数	540名

●大気(大気汚染防止法、県条例)

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
暖房機(2基)	A重油	硫黄酸化物	0.69	0.006
		窒素酸化物	180	80
		ばいじん	0.3	ND
ボイラー(2基)	A重油	硫黄酸化物	0.494	0.008
		窒素酸化物	180	57
		ばいじん	0.3	ND
ボイラー ^{※4} (2基)	灯油	硫黄酸化物	2.31	0.004
		窒素酸化物	260	60
		ばいじん	0.3	ND

※1 単位硫黄酸化物:Nm³/hr 窒素酸化物:ppm ばいじん:g/Nm³

※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。 ※3 実績は全対象施設の年間での最大値です。 ※4 灯油ボイラーは県条例による対象施設です。

●水質(水質汚濁防止法、県条例)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	5.8～8.6	7.3	6.8～7.8 ^{※1}
BOD	30	ND	5
SS	70	ND	7
n-ヘキサン(鉱油)	5	0.6	1.5
フェノール	5	ND	0.1
銅	1	ND	0.02
亜鉛	5	0.02	0.08
溶解性鉄	10	0.78	3.3
溶解性マンガン	10	0.05	0.2
全クロム	2	ND	0.02
フッ素	15	ND	0.2
大腸菌群数	3000	10	30
シアン	0.1	ND	0.02
鉛	0.1	ND	0.01
1,1,1,1-トリクロロエタン	3	ND	ND
トリクロロエチレン	0.3	ND	ND
テトラクロロエチレン	0.1	ND	ND
ジクロロメタン	0.2	ND	ND

※単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/ℓ ※pH:水素イオン濃度

※BOD:生物学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。

※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての移動量	リサイクル
ジクロロメタン(塩化メチレン)	3.5	3.5	0.0	0.0
鉛及びその化合物	1.0	0.0	0.0	0.8

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

テクニカルセンター	
●所在地	千葉県市川市東和田2-15-7
●開発拠点	
●土地面積	3.3 万m ²
●建物延床面積	5.5 万m ²
●完成年月	1960年9月
●従業員数	980名

●大気(大気汚染防止法、県条例)

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
ボイラー(4基)	都市ガス	窒素酸化物	150	83
		ばいじん	0.1	0.007

※1 単位窒素酸化物:ppm ばいじん:g/Nm³

※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。

※3 実績は全対象施設の年間での最大値です。

●水質(下水道法、市条例)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	5.0～9.0	7.5	6.8～8.0 ^{※1}
BOD	600	ND	5
COD	-	5.2	9
SS	600	2.2	8.5
n-ヘキサン(鉱油)	5	ND	ND
銅	1	0.02	0.02
亜鉛	3	0.31	0.35
溶解性鉄	5	0.09	0.11
溶解性マンガン	5	0.01	0.02
全窒素	60	4.2	5.5
全リン	8	0.9	1.59
ガドリウム	0.01	ND	ND
鉛	0.1	ND	ND
1,1,1,1-トリクロロエタン	3	ND	ND
トリクロロエチレン	0.3	ND	ND
テトラクロロエチレン	0.1	ND	ND
ジクロロメタン	0.2	ND	ND

※単位pH:なし その他:mg/ℓ ※pH:水素イオン濃度 ※BOD:生物学的酸素要求量

※COD:化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。

※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質<該当なし>

成田工場AC地区	
●所在地	千葉県成田市南羽鳥松ヶ下570-2
●生産品目	金属磁石、複合材料磁石、磁石応用製品 電源製品、次世代情報通信製品、金属磁性材料
●土地面積	7.9 万m ²
●建物延床面積	4.9 万m ²
●完成年月	1978年8月
●従業員数	810名

●大気<該当設備なし>

●水質(水質汚濁防止法、県条例)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	5.8～8.6	7.6	7.1～8.0 ^{※1}
BOD	20	1.4	3.8
COD	160(120)	1.9	6.3
SS	40	ND	3
n-ヘキサン(鉱油)	3	ND	ND
銅	1	ND	ND
亜鉛	1	ND	0.2
溶解性鉄	5	ND	ND
溶解性マンガン	5	ND	ND

※単位pH:なし その他:mg/l※ pH:水素イオン濃度 ※BOD:生物化学的酸素要求量
※COD:化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。
※1pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての 移動量	リサイクル
トルエン	25.5	3.8	1.7	20.0
ジクロロメタン(塩化メチレン)	1.3	0.0	0.0	1.2
コバルト及びその化合物	81.1	0.0	0.5	43.4
ほう素及びその化合物	18.1	0.0	0.1	5.8

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

成田工場B地区	
●所在地	千葉県成田市南羽鳥松ヶ下570-1
●生産品目	フェライトコア、マイクロ波部品
●土地面積	5.3 万m ²
●建物延床面積	1.6 万m ²
●完成年月	1980年12月
●従業員数	310名

●大気(大気汚染防止法、県条例)

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
焙焼炉(2基)	LPG	硫黄酸化物	-	ND
		窒素酸化物	220	135
		ばいじん	0.15	0.043
		塩素	-	23
		塩化水素	-	72
廃ガス焼却炉(1基)	水素	硫黄酸化物	-	ND
		窒素酸化物	150	59
		ばいじん	0.1	0.009
		塩素	-	ND
		塩化水素	-	ND
精製反応棟(1基)		ばいじん	-	0.004
		塩素	30	ND
		塩化水素	80	ND

※1 単位硫黄酸化物:Nm³/hr 窒素酸化物:ppm ばいじん:g/Nm³ 塩素、塩化水素:mg/Nm³
※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。
※3 実績は全対象施設の年間での最大値です。

●水質(水質汚濁防止法、県条例)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	5.8～8.6	7.2	7.0～7.4 ^{※1}
BOD	20	0.8	2.5
COD	160(120)	1.5	3.2
SS	40	ND	1
n-ヘキサン(鉱油)	3	ND	1
フェノール	0.5	ND	ND
銅	1	0.05	0.07
亜鉛	1	ND	ND
溶解性鉄	5	ND	0.3
溶解性マンガン	5	ND	0.4
全クロム	0.5	ND	ND
フッ素	10	ND	ND
大腸菌群数	3000	ND	ND
全窒素	120	1.2	1.2
全リン	16	ND	ND
ガドリウム	0.01	ND	ND
シアン	ND	ND	ND
鉛	0.1	ND	ND
6価クロム	0.05	ND	ND
ヒ素	0.05	ND	ND
総水銀	0.0005	ND	ND
1,1,1,トリクロロエタン	3	ND	ND
トリクロロエチレン	0.3	ND	ND
テトラクロロエチレン	0.1	ND	ND
ジクロロメタン	0.2	ND	ND
4塩化炭素	0.02	ND	ND
ベンゼン	0.1	ND	ND
セレン	0.1	ND	ND

※単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/l※ pH:水素イオン濃度
※BOD:生物化学的酸素要求量 ※COD:化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度
※NDは定量下限値以下です。 ※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての 移動量	リサイクル
マンガン及びその化合物	832.9	0.0	1.6	86.0
五酸化バナジウム	1.1	0.0	0.0	0.1

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

甲府工場	
●所在地	山梨県中巨摩郡甲西町宮沢160
●生産品目	各種ヘッド製品
●土地面積	9.3 万m ²
●建物延床面積	3.5 万m ²
●完成年月	1982年6月
●従業員数	590名

●大気(大気汚染防止法)

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
ボイラー(2基)	LPG	硫黄酸化物	3.05	ND
		窒素酸化物	150	110
		ばいじん	0.1	ND

※1 単位硫黄酸化物:Nm³/hr 窒素酸化物:ppm ばいじん:g/Nm³

※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。

※3 実績は全対象施設の年間での最大値です。

●水質(水質汚濁防止法、県条例)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	5.8～8.6	7.1	6.9～7.3 ^{※1}
BOD	30(20)	6.8	12
COD	30(20)	3	5.5
SS	50(30)	1.6	4
n-ヘキサン(鉱油)	5	ND	ND
銅	1	ND	ND
亜鉛	1	ND	ND
溶解性鉄	1	0.13	0.2
溶解性マンガン	1	0.04	0.08
フッ素	1	ND	0.5
鉛	0.1	ND	ND
1,1,1,トリクロロエタン	3	ND	ND
トリクロロエチレン	0.3	ND	ND
テトラクロロエチレン	0.1	ND	ND
ジクロロメタン	0.2	ND	ND

※単位pH:なし その他:mg/l[※] ※pH:水素イオン濃度 ※BOD:生物化学的酸素要求量

※COD:化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。

※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての 移動量	リサイクル
ニッケル化合物	3.7	2.4	0.1	1.2
キシレン	33.4	4.6	0.0	28.9

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

千曲川工場	
●所在地	長野県佐久市根々井113
●生産品目	光ディスク
●土地面積	11.0 万m ²
●建物延床面積	5.4 万m ²
●完成年月	1969年12月
●従業員数	530名

●大気(大気汚染防止法)

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
ボイラー(2基)	A重油	硫黄酸化物	16	0.11
		窒素酸化物	150	120
		ばいじん	0.25	0.008

※1 単位硫黄酸化物:Nm³/hr 窒素酸化物:ppm ばいじん:g/Nm³

※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。

※3 実績は全対象施設の年間での最大値です。

●水質(水質汚濁防止法、市条例)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	5.8～8.6	7.5	7.2～7.7 ^{※1}
BOD	20	2.8	18
COD	20	3.9	3.9
SS	30	2	6
n-ヘキサン(鉱油)	5	ND	ND
n-ヘキサン(植物油)	30	ND	ND
フェノール	5	ND	ND
銅	3	ND	ND
亜鉛	3	ND	ND
溶解性鉄	10	ND	ND
溶解性マンガン	10	ND	ND
全クロム	1	ND	ND
フッ素	15	0.14	0.14
大腸菌群数	3000	244	2400
全窒素	120	9.4	9.4
全リン	16	1.4	1.4
ニッケル	-	ND	ND
カドミウム	0.05	ND	ND
シアン	0.5	ND	ND
鉛	0.1	ND	ND
6価クロム	0.3	ND	ND
ヒ素	0.1	ND	ND
総水銀	0.003	ND	ND
1,1,1,トリクロロエタン	3 ND	ND	ND
トリクロロエチレン	0.3	ND	ND
テトラクロロエチレン	0.001	ND	ND
ジクロロメタン	0.2	ND	ND
4塩化炭素	0.02	ND	ND
ベンゼン	0.1	ND	ND
セレン	0.1	ND	ND
硝酸、亜硝酸性窒素	-	8	8
ほう素	-	0.3	0.3

※単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/l[※] ※pH:水素イオン濃度

※BOD:生物化学的酸素要求量 ※COD:化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度

※NDは定量下限値以下です。 ※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての 移動量	リサイクル
トルエン	4.6	1.0	0.0	3.6
ジクロロメタン(塩化メチレン)	8.6	4.8	0.0	3.8
コバルト及びその化合物	2.1	0.0	0.1	1.9
N,N-ジメチルホルムアミド	2.4	1.2	0.0	1.2

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

千曲川第1テクニカルセンター				
●所在地	長野県佐久市小田井462-1			
●開発拠点				
●土地面積	7.4 万m ²			
●建物延床面積	1.6 万m ²			
●完成年月	1983年11月			
●従業員数	120名			

●大気(大気汚染防止法)

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
ボイラー(1基)	A重油	硫黄酸化物	6.8	0.08
		窒素酸化物	180	41
		ばいじん	0.3	0.002

※1 単位硫黄酸化物:Nm³/hr 窒素酸化物:ppm ばいじん:g/Nm³
※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。
※3 実績は全対象施設の年間での最大値です。

●水質(水質汚濁防止法、市条例)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	6.0～8.5	7.8	7.6～8.1 ^{※1}
BOD	20	1.3	2
SS	40	1.6	3
n-ヘキサン(鉱油)	5	1	1
n-ヘキサン(植物油)	5	ND	ND
大腸菌群数	3000	45	330

※単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/ℓ ※pH:水素イオン濃度
※BOD:生物化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。
※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての 移動量	リサイクル
コバルト及びその化合物	65.8	0.0	1.0	61.0

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

千曲川第2テクニカルセンター				
●所在地	長野県佐久市小田井543			
●生産品目	薄膜ヘッパ [※]			
●土地面積	9.5 万m ²			
●建物延床面積	2.3 万m ²			
●完成年月	1986年6月			
●従業員数	460名			

●大気(大気汚染防止法)

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
ボイラー(1基)	A重油	硫黄酸化物	7.4	0.06
		窒素酸化物	180	99
		ばいじん	0.3	0.002

※1 単位硫黄酸化物:Nm³/hr 窒素酸化物:ppm ばいじん:g/Nm³
※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。
※3 実績は全対象施設の年間での最大値です。

●水質(水質汚濁防止法、市条例)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	6.0～8.5	7.2	6.8～7.5 ^{※1}
BOD	20	3.1	11
SS	40	1.5	3
n-ヘキサン(鉱油)	5	1	1
n-ヘキサン(植物油)	5	ND	ND
フェノール	5	0.02	0.02
銅	3	0.08	0.15
溶解性鉄	10	0.15	0.2
フッ素	15	0.1	0.1
大腸菌群数	3000	ND	ND
ニッケル	-	4.6	4.6

※単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/ℓ ※pH:水素イオン濃度
※BOD:生物化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。
※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての 移動量	リサイクル
ニッケル化合物	3.9	0.0	2.6	1.3
キシレン	76.2	9.2	67.0	0.0
ほう素及びその化合物	1.2	0.3	0.9	0.0

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

静岡工場	
●所在地	静岡県榛原郡相良町女神31-1
●生産品目	フェライト 磁石
●土地面積	5.8 万㎡
●建物延床面積	2.1 万㎡
●完成年月	1970年5月
●従業員数	240名

●大気（大気汚染防止法、県条例）

設備	燃料	排出物質※1	規制値※2	実績※3
仮焼炉（3基）	灯油	硫黄酸化物	4.62	0.01
		窒素酸化物	220	170
		ばいじん	0.15	ND
仮焼炉（1基）	LPG	硫黄酸化物	4.48	0.02
		窒素酸化物	220	93
		ばいじん	0.15	ND

※1 単位硫黄酸化物:Nm³/hr 窒素酸化物:ppm ばいじん:g/Nm³
※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。
※3 実績は全対象施設の年間での最大値です。

●水質（水質汚濁防止法、公害防止協定）

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	5.8～8.6	7.3	6.9～8.5※1
BOD	25 (20)	2	4
COD	-	8.5	20
SS	40 (30)	2	12
n-ヘキサン(鉱油)	5	0.4	0.9
溶解性鉄	10	0.09	0.15
大腸菌群数	3000	90	90

※単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/l ※pH:水素イオン濃度
※BOD:生物化学的酸素要求量 ※COD:化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度
※NDは定量下限値以下です。 ※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質＜静岡、静岡波、相良工場＞

化学物質名	取扱量	排出量※1	廃棄物としての 移動量	リサイクル
コバルト 及びその化合物	11.4	0.0	0.2	0.0
2-アミノエタノール	2.1	0.9	0.4	0.0

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

静岡工場	
●所在地	静岡県榛原郡榛原町細江712-1
●生産品目	フェライト 磁石
●土地面積	1.7 万㎡
●建物延床面積	0.8 万㎡
●完成年月	1979年4月
●従業員数	150名

●大気＜該当設備なし＞

●水質（法規制には該当しませんが自主管理基準を設けています。）

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	-	7.4	7.1～7.8※1
BOD	-	7	15
COD	-	48	82
SS	-	8	20
n-ヘキサン(鉱油)	-	ND	ND
溶解性鉄	-	0.1	0.14
大腸菌群数	-	300	300

※単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/l ※pH:水素イオン濃度
※BOD:生物化学的酸素要求量 ※COD:化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度
※NDは定量下限値以下です。 ※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質＜静岡工場に含む＞

相良工場	
●所在地	静岡県榛原郡相良町白井117-1
●生産品目	フェライト 磁石
●土地面積	3.2 万㎡
●建物延床面積	0.8 万㎡
●完成年月	1984年8月
●従業員数	80名

●大気＜該当設備なし＞

●水質（水質汚濁防止法、公害防止協定）

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	5.8～8.6	7.6	6.8～7.9※1
BOD	-	1	2
SS	40 (30)	3	11
n-ヘキサン(鉱油)	5	0.3	0.6
溶解性鉄	10	0.1	0.14
大腸菌群数	-	ND	ND

※単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/l ※pH:水素イオン濃度
※BOD:生物化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。
※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質＜静岡工場に含む＞

三隈川工場	
●所在地	大分県日田市石井町3-793-1
●生産品目	ビデオテープ、オーディオテープ
●土地面積	10.0 万m ²
●建物延床面積	3.3 万m ²
●完成年月	1982年5月
●従業員数	330名

●大気(大気汚染防止法、公害防止協定)

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
ボイラー(2基)	A重油	硫黄酸化物	2	0.1
		窒素酸化物	180	120
		ばいじん	0.1	ND
EGI ^{※4} (2基)	有機溶剤ガス	硫黄酸化物	-	0.13
	A重油	窒素酸化物	200	46
		ばいじん	-	0.08

※1 単位硫黄酸化物:Nm³/hr 窒素酸化物:ppm ばいじん:g/Nm³
※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。 ※3 実績は全対象施設の年間での最大値です。 ※4 日田市との公害防止協定による、脱臭機です。

●水質(水質汚濁防止法、公害防止協定)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	5.8～8.6	7.8	7.5～8.0 ^{※1}
BOD	120	0.7	1.2
SS	150	1	1
n-ヘキサン(鉱油)	5	0.5	0.6
n-ヘキサン(植物油)	30	0.5	0.8
大腸菌群数	3000	ND	ND

※ 単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/l ※pH:水素イオン濃度
※BOD:生物化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。
※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての移動量	リサイクル
トルエン	83.5	5.0	0.0	78.5
コバルト及びその化合物	88.1	0.0	0.0	83.7
クロム及び3価クロム化合物	25.3	0.0	0.0	1.2

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

羽城TDK	
●所在地	秋田県南秋田郡昭和町乱橋字後堰鴨田50
●生産品目	積層チップコンデンサ、中高圧コンデンサ
●土地面積	1.6 万m ²
●建物延床面積	0.4 万m ²
●完成年月	1968年10月
●従業員数	140名

●大気(大気汚染防止法、県条例)

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
ボイラー ^{※4} (1基)	灯油	硫黄酸化物	0.948	ND
		窒素酸化物	180	72
		ばいじん	0.3	ND

※1 単位硫黄酸化物:Nm³/hr 窒素酸化物:ppm ばいじん:g/Nm³
※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。 ※3 実績は全対象施設の年間での最大値です。 ※4 灯油ボイラーは県条例による対象施設です。

●水質(法規制には該当しませんが自主管理基準を設けています)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	-	7.1	6.9～7.3 ^{※1}
BOD	-	11	11
COD	-	5.9	5.9
SS	-	21	23
大腸菌群数	-	900	1800
鉛	-	ND	0.01
ジクロロメタン	-	ND	ND

※単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/ℓ ※pH:水素イオン濃度
※BOD:生物化学的酸素要求量 ※COD:化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度
※NDは定量下限値以下です。 ※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての 移動量	リサイクル
トルエン	1.2	1.1	0.2	0.0
ジクロロメタン(塩化メチレン)	138.7	106.0	0.0	32.7
鉛及びその化合物	2.0	0.0	0.0	0.0
銀及びその水溶性化合物	1.3	0.0	0.0	0.1

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

大内TDK	
●所在地	秋田県由利郡大内町三川字弘川146-1
●生産品目	積層チップ部品
●土地面積	4.2 万m ²
●建物延床面積	1.3 万m ²
●完成年月	1970年1月
●従業員数	430名

●大気(大気汚染防止法、県条例)

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
ボイラー ^{※4} (4基)	灯油	硫黄酸化物	1.5	ND
		窒素酸化物	260	92
		ばいじん	0.3	ND
冷温水機(2基)	灯油	硫黄酸化物	1.55	ND
		窒素酸化物	260	54
		ばいじん	0.3	ND

※1 単位硫黄酸化物:Nm³/hr 窒素酸化物:ppm ばいじん:g/Nm³
※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。 ※3 実績は全対象施設の年間での最大値です。 ※4 灯油ボイラーは県条例による対象施設です。

●水質(法規制には該当しませんが自主管理基準を設けています)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	-	6.5	6.4～6.7 ^{※1}
BOD	-	13	16
SS	-	8	10
n-ヘキサン(鉱油)	-	ND	ND
n-ヘキサン(植物油)	-	ND	ND
フェノール	-	ND	ND
銅	-	0.03	0.05
亜鉛	-	0.42	0.54
溶解性鉄	-	0.2	0.38
溶解性マンガン	-	0.06	0.08
大腸菌群数	-	33	100
全リン	-	0.27	0.32
鉛	-	ND	ND
ヒ素	-	ND	ND
ジクロロメタン	-	ND	ND

※単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/ℓ ※pH:水素イオン濃度
※BOD:生物化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。
※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての 移動量	リサイクル
トルエン	319.0	8.6	310.4	0.0
ジクロロメタン(塩化メチレン)	18.8	16.0	0.0	2.8
ニッケル化合物	20.9	0.0	1.9	0.0
銀及びその水溶性化合物	4.1	0.0	0.0	0.5

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

TDK- MCC	
●所在地	秋田県由利郡仁賀保町平沢字前田151
●生産品目	積層チップ部品
●土地面積	6.1 万m ²
●建物延床面積	3.3 万m ²
●完成年月	1971年6月
●従業員数	750名

●大気(大気汚染防止法、県条例)

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
ボイラー ^{※4} (8基)	灯油	硫黄酸化物	0.856	0.006
		窒素酸化物	180	78
		ばいじん	0.3	0.01

※1 単位硫黄酸化物:Nm³/hr 窒素酸化物:ppm ばいじん:g/Nm³
※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。 ※3 実績は全対象施設の年間で
の最大値です。 ※4 灯油ボイラーは県条例による対象施設です。

●水質(法規制には該当しませんが自主管理基準を設けています)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	-	6.7	6.5～7.1 ^{※1}
BOD	-	30	59
SS	-	22	69
n-ヘキサン(鉱油)	-	ND	1
銅	-	0.02	0.03
溶解性鉄	-	0.3	0.43
溶解性マンガ	-	0.06	0.1
全クロム	-	ND	ND
大腸菌群数	-	43	170
鉛	-	ND	0.02
6価クロム	-	ND	ND
1.1.1.トリクロロエタン	-	ND	ND
トリクロロエチレン	-	ND	ND
テトラクロロエチレン	-	ND	ND
ジクロロメタン	-	ND	ND

※単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/ℓ ※pH:水素イオン濃度
※BOD:生物化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。
※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての 移動量	リサイクル
トルエン	414.7	323.1	91.6	0.0
バリウム及びその水溶性化合物	94.4	0.0	29.9	0.0
ジクロロメタン(塩化メチレン)	558.5	383.1	175.4	0.0
ニッケル化合物	110.8	0.0	17.2	0.0
鉛及びその化合物	25.4	0.0	13.1	0.0
キシレン	29.1	22.4	6.7	0.0
コバルト 及びその化合物	1.2	0.0	0.4	0.0
銀及びその水溶性化合物	1.7	0.0	0.3	0.0
クロム及び3価クロム化合物	1.7	0.0	0.6	0.0
五酸化バナジウム	1.8	0.0	0.6	0.0
エチレングリコール	13.3	9.1	4.2	0.0
ピドラジン	1.0	0.0	1.0	0.0
フタル酸ジ-n-ブチル	5.9	4.0	1.9	0.0
フタル酸n-ブチルベンジル	39.3	26.8	12.5	0.0

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

イワキ工業	
●所在地	秋田県由利郡岩城町亀田亀田町字田町16-2
●生産品目	NEO磁石、チップコンデンサ
●土地面積	0.9 万m ²
●建物延床面積	0.4 万m ²
●完成年月	1972年7月
●従業員数	90名

●大気<該当設備なし>

●水質(水質汚濁防止法、県条例)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	5.8～8.6	7.3	6.7～7.9 ^{※1}
BOD	30	9.3	15
SS	70	8	8
銅	1	0.06	0.1
亜鉛	5	ND	0.03
溶解性鉄	10	ND	0.4
全クロム	2	ND	ND
フッ素	15	3.4	7.6
全窒素	-	290	390
全リン	-	0.52	1.6
シアン	0.1	ND	ND
鉛	0.1	ND	ND
6価クロム	0.2	ND	ND

※単位pH:なし その他:mg/ℓ ※pH:水素イオン濃度 ※BOD:生物化学的酸素要求量
※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。
※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての 移動量	リサイクル
ニッケル化合物	44.0	0.2	7.0	0.0
銅水溶性塩(錯塩を除く)	1.3	0.0	1.3	0.0

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

象潟TDK	
●所在地	秋田県由利郡象潟町字武道島100
●生産品目	高圧コンデンサ、リングバリスタ、チップNTC、チップバリスタ
●土地面積	3.7 万m ²
●建物延床面積	1.0 万m ²
●完成年月	1972年9月
●従業員数	290名

●大気（大気汚染防止法、県条例）

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
ボイラー ^{※4} （2基）	灯油	硫黄酸化物	0.961	ND
		窒素酸化物	180	77
		ばいじん	0.3	0.01

※1 単位硫黄酸化物:Nm³/hr 窒素酸化物:ppm ばいじん:g/Nm³
 ※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。 ※3 実績は全対象施設の年間での最大値です。 ※4 灯油ボイラーは県条例による対象施設です。

●水質（水質汚濁防止法、県条例）

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	5.8～8.6	7.4	6.8～7.9 ^{※1}
BOD	30	ND	ND
SS	70	1	8
n-ヘキサン（鉱油）	5	ND	1
銅	1	0.01	0.02
大腸菌群数	3000	92	220
鉛	0.1	ND	ND
ジクロロメタン	0.2	0.015	0.02

※単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/ℓ ※pH:水素イオン濃度
 ※BOD:生物化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。
 ※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての移動量	リサイクル
トルエン	8.2	2.1	6.1	0.0
ジクロロメタン(塩化メチレン)	7.2	5.8	1.0	0.4
鉛及びその化合物	3.6	0.0	0.1	0.0
銀及びその水溶性化合物	2.1	0.0	0.0	0.2
ビスフェノールA中間体	40.1	0.0	1.0	0.0

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

富士興業所	
●所在地	秋田県由利郡仁賀保町平沢字田角森167番地
●生産品目	ラインフィルタ、SFコイル、TFコイル
●土地面積	0.3 万m ²
●建物延床面積	0.1 万m ²
●完成年月	1972年11月
●従業員数	70名

●大気＜該当設備なし＞

●水質（水質汚濁防止法、県条例）

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	-	7.3	6.8～7.9 ^{※1}
BOD	-	19	54
SS	-	33	230
鉛	0.1	ND	ND

※単位pH:なし その他:mg/ℓ ※pH:水素イオン濃度
 ※BOD:生物化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。
 ※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての移動量	リサイクル
トルエン	12.0	11.9	0.1	0.0
キシレン	4.5	4.5	0.0	0.0
ビスフェノールA中間体	6.1	0.0	5.5	0.0

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

金浦TDK				
●所在地	秋田県由利郡金浦町金浦字十二の前130			
●生産品目	高周波コイル、高周波重畳モジュール			
●土地面積	2.5 万m ²			
●建物延床面積	0.7 万m ²			
●完成年月	1974年12月			
●従業員数	560名			

●大気(大気汚染防止法、県条例)

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
ボイラー ^{※4} (4基)	灯油	硫黄酸化物	0.912	ND
		窒素酸化物	180	80
		ばいじん	0.3	ND

※1 単位硫黄酸化物:Nm³/hr 窒素酸化物:ppm ばいじん:g/Nm³
※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。 ※3 実績は全対象施設の年間での最大値です。 ※4 灯油ボイラーは県条例による対象施設です。

●水質(法規制には該当しませんが自主管理基準を設けています)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	-	6.9	6.8～6.9 ^{※1}
BOD	-	3.9	5.2
SS	-	4	4
銅	-	0.01	0.02
亜鉛	-	0.11	0.11
大腸菌群数	-	15	30
カドミウム	-	ND	ND
シアン	-	ND	ND
鉛	-	ND	ND
ヒ素	-	ND	ND
総水銀	-	ND	ND
ジクロロメタン	-	ND	ND

※単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/l[※] ※pH:水素イオン濃度
※BOD:生物化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。
※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての 移動量	リサイクル
トルエン	1.7	1.7	0.0	0.0

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

湯沢TDK				
●所在地	秋田県湯沢市岩崎字狐崎8-7			
●生産品目	EMIサプレッサ、EMIサプレッサアレイ EMIフィルタ、コモンモードフィルタ			
●土地面積	2.1 万m ²			
●建物延床面積	0.5 万m ²			
●完成年月	1985年2月			
●従業員数	290名			

●大気(大気汚染防止法、県条例)

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
ボイラー(2基)	A重油	硫黄酸化物	2	0.02
		窒素酸化物	230	47
		ばいじん	0.2	ND

※1 単位硫黄酸化物:Nm³/hr 窒素酸化物:ppm ばいじん:g/Nm³
※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。
※3 実績は全対象施設の年間での最大値です。

●水質(水質汚濁防止法、県条例)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	5.8～8.6	7.0	7.0～7.0 ^{※1}
BOD	30	8.1	8.1
SS	70	8	8
n-ヘキサン(鉱油)	5	ND	ND
銅	1	0.06	0.06
亜鉛	5	0.13	0.13
溶解性鉄	10	0.09	0.09
溶解性マンガン	10	ND	ND
大腸菌群数	3000	120	120
鉛	0.1	ND	ND

※単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/l[※] ※pH:水素イオン濃度
※BOD:生物化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。
※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての 移動量	リサイクル
トルエン	6.1	6.1	0.0	0.0
ジクロロメタン(塩化メチレン)	10.0	7.7	0.0	2.3
ニッケル化合物	5.0	0.0	1.7	1.0
キシレン	6.0	6.0	0.0	0.0

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

TDK秋田コンポーネンツ 本荘工場				
●所在地	秋田県本荘市石脇字山ノ神16-57			
●生産品目	DC/DCコンバータ、NTCサーミスタ			
●土地面積	4.7 万m ²			
●建物延床面積	0.7 万m ²			
●完成年月	1973年7月			
●従業員数	450名			

●大気＜該当設備なし＞

●水質（法規制には該当しませんが自主管理基準を設けています）

項目	規制値	実績（本荘第1工場）		実績（本荘第2工場）	
		平均値	最大値	平均値	最大値
pH	-	6.8	6.6～7.0 ^{※1}	7.5	7.2～7.7 ^{※1}
BOD	-	5.7	6.4	14	19
SS	-	3	3	18	29
n-ヘキサン(鉱油)	-	1	2	ND	1
フェノール	-	ND	ND	ND	ND
銅	-	ND	ND	ND	ND
亜鉛	-	0.02	0.02	0.1	0.1
溶解性鉄	-	0.07	0.07	0.07	0.07
溶解性マンガン	-	0.03	0.03	0.51	0.51
大腸菌群数	-	145	260	110	220
鉛	-	ND	ND	ND	ND
1,1,1トリクロロエタン	-	ND	ND	ND	ND
トリクロロエチレン	-	ND	ND	ND	ND
テトラクロロエチレン	-	ND	ND	ND	ND
ジクロロメタン	-	ND	ND	ND	ND

※単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/l[※] ※pH:水素イオン濃度

※BOD:生物化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度

※NDは定量下限値以下です。 ※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての移動量	リサイクル
トルエン	1.4	0.4	1.0	0.0
ジクロロメタン(塩化メチレン)	4.1	0.6	2.3	1.1
鉛及びその化合物	2.0	0.0	0.1	0.9
ビスフェノールA中間体	4.9	0.0	0.2	0.0

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

TDK秋田コンポーネンツ 矢島工場				
●所在地	秋田県由利郡矢島町字元町字大川原175			
●生産品目	EMC製品、SAセンサー製品			
●土地面積	1.5 万m ²			
●建物延床面積	0.7 万m ²			
●完成年月	1973年6月			
●従業員数	360名			

●大気＜該当設備なし＞

●水質（法規制には該当しませんが自主管理基準を設けています）

項目	規制値	実績	
		平均値	最大値
pH	-	6.9	6.9～6.9 ^{※1}
BOD	-	3.4	3.9
SS	-	3	4
n-ヘキサン(鉱油)	-	ND	ND
銅	-	ND	0.06
亜鉛	-	0.05	0.26
溶解性鉄	-	0.45	0.78
溶解性マンガン	-	0.07	0.21
大腸菌群数	-	ND	ND
鉛	-	ND	ND
ジクロロメタン	-	ND	ND

※単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/l[※] ※pH:水素イオン濃度

※BOD:生物化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度

※NDは定量下限値以下です。 ※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての移動量	リサイクル
トルエン	2.0	1.1	0.9	0.0
ジクロロメタン(塩化メチレン)	24.6	20.3	0.0	4.4
鉛及びその化合物	1.7	0.0	0.0	0.2
ビスフェノールA中間体	2.5	0.0	0.1	0.0
2-アミノエタノール	2.9	0.0	2.9	0.0

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

ユザTDK	
●所在地	山形県飽海郡遊佐町大字遊佐町字前田18-1
●生産品目	SAWフィルタ、光アイソレータ、セラミックレゾネータ
●土地面積	2.2 万m ²
●建物延床面積	0.8 万m ²
●完成年月	1968年2月
●従業員数	250名

●大気(大気汚染防止法、県条例)

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
ボイラー(2基)	灯油	硫黄酸化物	0.483	ND
		窒素酸化物	180	54
		ばいじん	0.3	ND

※1 単位硫黄酸化物:Nm³/hr 窒素酸化物:ppm ばいじん:g/Nm³
※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。
※3 実績は全対象施設の年間での最大値です。

●水質(水質汚濁防止法)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	5.8～8.6	7.1	6.9～7.3 ^{※1}
BOD	160(120)	7.1	10
SS	200(150)	20	26
n-ヘキサン(鉱油)	5	ND	ND
銅	3	ND	ND
溶解性鉄	10	0.17	0.27
溶解性マンガン	10	ND	0.1
フッ素	15	ND	ND
大腸菌群数	3000	ND	ND
鉛	0.1	ND	ND
トリクロロエチレン	0.3	ND	ND
テトラクロロエチレン	0.1	ND	ND
ジクロロメタン	0.2	ND	ND

※単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/l[※] ※pH:水素イオン濃度
※BOD:生物化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。
※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての 移動量	リサイクル
トルエン	2.0	1.6	0.3	0.0
ジクロロメタン(塩化メチレン)	50.6	32.1	0.0	18.5
キシレン	1.1	1.1	0.0	0.0

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

鶴岡TDK	
●所在地	山形県鶴岡市大字山田字油田97
●生産品目	NLコイル、SWRG電源
●土地面積	4.9 万m ²
●建物延床面積	2.1 万m ²
●完成年月	1968年9月
●従業員数	590名

●大気(大気汚染防止法、県条例)

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
ボイラー(2基)	灯油	硫黄酸化物	1.12	ND
		窒素酸化物	180	69
		ばいじん	0.3	ND
冷温水機(2基)	灯油	硫黄酸化物	1.45	ND
		窒素酸化物	260	64
		ばいじん	0.3	ND

※1 単位硫黄酸化物:Nm³/hr 窒素酸化物:ppm ばいじん:g/Nm³
※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。 ※3 実績は全対象施設の年間での最大値です。

●水質(法規制には該当しませんが自主管理基準を設けています)

項目	規制値	実績(1号排水路) ^{※2}		実績(2号排水路) ^{※2}		実績(号排水路) ^{※3}	
		平均値	最大値	平均値	最大値	平均値	最大値
pH	-	7.5	7.4～7.6 ^{※1}	7.1	7.0～7.4 ^{※1}	7.5	7.4～7.6 ^{※1}
BOD	-	16.9	42.6	2.1	8	15	22.5
COD	-	21.6	33.4	8.8	10.5	10.3	11.5
SS	-	6.4	18	9.3	23	9.4	17
n-ヘキサン(鉱油)	-	1.4	3	0.6	1.9	ND	0.5
n-ヘキサン(植物油)	-	ND	ND	1.2	2.3	ND	ND
フェノール	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND
銅	-	0.01	0.01	0.03	0.03	ND	ND
亜鉛	-	0.04	0.04	0.35	0.35	0.08	0.08
溶解性鉄	-	0.34	0.34	0.05	0.05	0.06	0.06
溶解性マンガン	-	0.01	0.01	0.01	0.01	0.48	0.48
全クロム	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND
フッ素	-	ND	ND	ND	ND	0.1	0.1
大腸菌群数	-	ND	ND	ND	ND	12	36
カドミウム	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND
シアン	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND
鉛	-	ND	ND	0.04	0.08	ND	ND
6価クロム	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND
ヒ素	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND
総水銀	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND
1,1,1,1-トリクロロエタン	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND
ジクロロメタン	-	0.042	0.092	0.006	0.007	0.006	0.012

※単位pH:なし その他:mg/l[※] ※pH:水素イオン濃度 ※BOD:生物化学的酸素要求量
※COD:化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。
※1 pHについては、最小値～最大値です。
※2 2000年9月まで使用。 ※3 2000年10月から使用。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての 移動量	リサイクル
ジクロロメタン(塩化メチレン)	94.3	64.6	29.7	0.0
鉛及びその化合物	8.2	0.0	1.2	0.0

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

酒田TDK	
●所在地	山形県酒田市大字宮海字明治99-19
●生産品目	EMC、コイル、トランス
●土地面積	1.7 万m ²
●建物延床面積	0.7 万m ²
●完成年月	1981年9月
●従業員数	240名

●大気(大気汚染防止法、県条例)

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
ボイラー(1基)	灯油	硫黄酸化物	0.43	0.005
		窒素酸化物	180	69
		ばいじん	0.3	ND

※1 単位硫黄酸化物:Nm³/hr 窒素酸化物:ppm ばいじん:g/Nm³

※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。

※3 実績は全対象施設の年間での最大値です。

●水質(法規制には該当しませんが自主管理基準を設けています)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	-	7.0	6.8～7.2 ^{※1}
BOD	-	13.1	19.4
SS	-	5.9	11
n-ヘキサン(鉱油)	-	1.1	1.4
銅	-	ND	ND
亜鉛	-	0.08	0.1
溶解性鉄	-	0.41	0.66
溶解性マンガン	-	0.09	0.1
大腸菌群数	-	360	480
鉛	-	ND	ND
総水銀	-	ND	ND
ジクロロメタン	-	ND	ND

※単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/ℓ ※pH:水素イオン濃度

※BOD:生物化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。

※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての 移動量	リサイクル
トルエン	9.1	8.6	0.5	0.0
ジクロロメタン(塩化メチレン)	10.3	5.3	0.0	5.0
鉛及びその化合物	2.5	0.0	0.0	1.8
キシレン	4.7	4.6	0.1	0.0
ビスフェノールA中間体	5.6	0.0	5.5	0.0

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

TDKマイクロデバイス	
●所在地	茨城県北茨城市中郷町日棚644番55
●生産品目	SAWフィルタ、OELD
●土地面積	10.8 万m ²
●建物延床面積	1.0 万m ²
●完成年月	1993年1月
●従業員数	70名

●大気(大気汚染防止法、公害防止協定)

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
ボイラー(4基)	灯油	硫黄酸化物	5.34	ND
		窒素酸化物	180	81
		ばいじん	0.3	0.003
冷温水機(1基)	灯油	硫黄酸化物	5.65	ND
		窒素酸化物	180	57
		ばいじん	0.3	0.003

※1 単位硫黄酸化物:Nm³/hr 窒素酸化物:ppm ばいじん:g/Nm³

※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。

※3 実績は全対象施設の年間での最大値です。

●水質(水質汚濁防止法、公害防止協定)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	5.8～8.6	7.3	6.8～8.2 ^{※1}
BOD	25(20)	3.5	8.6
COD	25(20)	3.8	5.5
SS	40(30)	ND	7
n-ヘキサン(鉱油)	5	ND	ND
n-ヘキサン(植物油)	10	ND	ND
銅	3	ND	0.2
亜鉛	5	ND	0.5
溶解性鉄	10	ND	0.2
溶解性マンガン	10	ND	ND
フッ素	8	ND	ND
大腸菌群数	3000	8	49
鉛	0.1	ND	ND

※単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/ℓ ※pH:水素イオン濃度

※BOD:生物化学的酸素要求量 ※COD:化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度

※NDは定量下限値以下です。 ※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての 移動量	リサイクル
トルエン	18.5	2.1	16.4	0.0
ニッケル化合物	1.4	0.0	0.3	0.0
銀及びその水溶性化合物	4.3	0.0	0.0	2.8

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

東総TDK	
●所在地	千葉県八日市場市みどり平10
●生産品目	誘電体フィルタ、アイソレータ、金属磁石
●土地面積	1.6 万m ²
●建物延床面積	0.5 万m ²
●完成年月	1985年4月
●従業員数	130名

●大気＜該当設備なし＞

●水質(法規制には該当しませんが自主管理基準を設けています)

項目	規制値	実績(フィルタ排水処理装置)		実績(NEO排水処理装置)	
		平均値	最大値	平均値	最大値
pH	-	7.5	7.3～7.7※1	7.0	6.5～7.5※1
BOD	-	24	25	24.1	45.4
COD	-	8	8.4	28.7	51.3
SS	-	9	9	12	25
n-ヘキサン(鉱油)	-	6	7.6	2.1	3.5
n-ヘキサン(植物油)	-	-	-	ND	ND
溶解性鉄	-	-	-	9.2	9.2
ジクロロメタン	-	0.08	0.11	0.02	0.04

※単位pH:なし その他:mg/ℓ ※pH:水素イオン濃度 ※BOD:生物化学的酸素要求量
※COD:化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。
※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量※1	廃棄物としての移動量	リサイクル
バリウム及びその水溶性化合物	14.2	0.0	0.4	0.0
ジクロロメタン(塩化メチレン)	2.0	1.7	0.3	0.0
コバルト及びその化合物	3.0	0.0	0.0	0.5
ほう素及びその化合物	6.2	0.0	0.0	1.0

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

甲府TDK	
●所在地	山梨県甲府市東光寺町1955-1
●生産品目	磁気ヘッド
●土地面積	1.2 万m ²
●建物延床面積	0.5 万m ²
●完成年月	1962年4月
●従業員数	130名

●大気＜該当設備なし＞

●水質(法規制には該当しませんが自主管理基準を設けています)

項目	規制値	実績	
		平均値	最大値
pH	-	6.7	6.5～7.0※1
BOD	-	12.2	27
COD	-	13	22
SS	-	12	19
大腸菌群数	-	280	440
鉛	-	ND	ND
1,1,1,1-トリクロロエタン	-	ND	ND
トリクロロエチレン	-	ND	ND
テトラクロロエチレン	-	ND	ND

※単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/ℓ ※pH:水素イオン濃度
※BOD:生物化学的酸素要求量 ※COD:化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度
※NDは定量下限値以下です。 ※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質＜該当なし＞

メディアテック	
●所在地	山梨県中巨摩郡玉穂町中盾801
●生産品目	民生用ビデオテープ、データバックアップ用テープ 放送業務用テープ
●土地面積	2.9 万m ²
●建物延床面積	1.1 万m ²
●完成年月	1991年10月
●従業員数	220名

●大気(大気汚染防止法)

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
ボイラー(3基)	A重油	硫黄酸化物	2.08	0.11
		窒素酸化物	180	120
		ばいじん	0.15	ND

※1 単位硫黄酸化物:Nm³/hr 窒素酸化物:ppm ばいじん:g/Nm³

※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。

※3 実績は全対象施設の年間での最大値です。

●水質(法規制には該当しませんが自主管理基準を設けています)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	-	6.9	5.6～8.0 ^{※1}
BOD	-	292	520.5
COD	-	189.5	335
SS	-	9.5	22.7
n-ヘキサン(鉱油)	-	2.1	4.6
よう素消費量	-	21.7	52.7

※単位pH:なし その他:mg/l% ※pH:水素イオン濃度 ※BOD:生物化学的酸素要求量

※COD:化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。

※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての 移動量	リサイクル
トルエン	320.8	38.5	4.2	278.1
コバルト 及びその化合物	46.7	0.0	0.6	0.5

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

飯田TDK	
●所在地	長野県飯田市松尾明7659
●生産品目	NL巻線型チップインダクタ
●土地面積	1.9 万m ²
●建物延床面積	0.8 万m ²
●完成年月	1966年12月
●従業員数	200名

●大気(大気汚染防止法)

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
ボイラー(2基)	A重油	硫黄酸化物	0.8	0.01
		窒素酸化物	180	72
		ばいじん	0.3	0.0092

※1 単位硫黄酸化物:Nm³/hr 窒素酸化物:ppm ばいじん:g/Nm³

※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。

※3 実績は全対象施設の年間での最大値です。

●水質(法規制には該当しませんが自主管理基準を設けています)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	-	8.6	8.6～8.6 ^{※1}
BOD	-	310	310
SS	-	99	99
n-ヘキサン(鉱油)	-	ND	ND
n-ヘキサン(植物油)	-	13	13
鉛	-	0.005	0.005
ジクロロメタン	-	0.016	0.016

※単位pH:なし その他:mg/l% ※pH:水素イオン濃度 ※BOD:生物化学的酸素要求量

※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。

※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質

化学物質名	取扱量	排出量 ^{※1}	廃棄物としての 移動量	リサイクル
ジクロロメタン(塩化メチレン)	47.2	36.5	0.0	10.7
鉛及びその化合物	9.5	0.0	6.5	3.1

※単位はt/年です。 ※1 大気、水質、土壌への排出量の合計です。

TDKサービス

秋田営業所

●所在地

秋田県由利郡仁賀保町平沢字坂ノ下29

●保険、小売業他

●土地面積

0.2 万m²

●建物延床面積

0.1 万m²

●完成年月

1982年

●従業員数

160名

●大気＜該当設備なし＞

●水質（水質汚濁防止法、県条例）

項目	規制値	実績	
		平均値	最大値
pH	5.8～8.6	7.4	7.1～7.7 ^{※1}
BOD	60	20	60
SS	60	ND	ND
n-ヘキサン(鉱油)	5	ND	ND
フェノール	5	ND	ND
銅	1	0.05	0.1
亜鉛	5	0.07	0.27
溶解性鉄	10	0.2	0.28
溶解性マンガン	10	0.4	1.1
フッ素	15	ND	0.2
カドミウム	0.1	ND	0.005
鉛	0.1	ND	0.01

※単位pH:なし その他:mg/l※ pH:水素イオン濃度 ※BOD:生物化学的酸素要求量
※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。
※1 pHについては、最小値～最大値です。

●PRTR対象物質＜該当なし＞

Korea TDK Co., Ltd.	
●所在地	670. Kasan-dong, Gumchon-ku, Seoul, Republic of Korea
●生産品目	フェライトコア、チップコンデンサ
●土地面積	1.6 万m ²
●建物延床面積	2.1 万m ²
●完成年月	1973年5月
●従業員数	530名

●大気(大気環境保全法)

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
焼却炉(1基)	廃棄物	硫黄酸化物	300	24.32
		窒素酸化物	200	64.43
		ばいじん	100	51.6
		一酸化炭素	600	33.02
		煤煙	2	0
		塩化水素	50	0.91

※1 単位硫黄酸化物、窒素酸化物、一酸化炭素、塩化水素:ppm ばいじん:g/Nm³ 煤煙:度

●水質(水質環境保全法)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	5.8～8.6	7.5	6.6～8.3 ^{※1}
COD	130	3.45	4.2
SS	120	12.6	18
n-ヘキサン	5	1.22	1.6
陰イオン界面活性剤	5	0.053	0.08

※単位pH:なし その他:mg/ℓ ※pH:水素イオン濃度 COD:化学的酸素要求量

※SS:水中の懸濁物質濃度 ※1 pHについては、最小値～最大値です。

TDK Dalian Corporation	
●所在地	No.68 West Huaihe Road, Dalian Economic & Technical Development Zone, Liaoning, People's Republic of China
●生産品目	フェライトコア、コイル、フィルター カラーテレビ用偏向コイル、アイソレータ
●土地面積	13.7 万m ²
●建物延床面積	4.1 万m ²
●完成年月	1993年4月
●従業員数	1290名

●大気<該当設備なし>

●水質(污水处理場基準)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	6.0～9.0	7.5	6.8～8.3 ^{※1}
COD	500	344	1080 ^{※2}
SS	250	148	830 ^{※2}
n-ヘキサン(植物油)	100	7.3	13.7
石油類	20	3.1	13.7
リン	15	3.8	7.4

※単位pH:なし その他:mg/ℓ ※pH:水素イオン濃度 COD:化学的酸素要求量

※SS:水中の懸濁物質濃度 ※1 pHについては、最小値～最大値です。

※2 食堂排水の沈殿層を設置し対策後の結果は問題ありません。

TDK Taiwan Corporation Yangmei Plant			
●所在地	159 Section 1, Chung Shan North Road,		
●生産品目	Tatung Li, Yangmei, Taoyuan, Taiwan		
●土地面積	フェライトコア、スイッチング電源、磁気ヘッド、		
	金属磁石、コイル、トランス、セラミックコンデンサ		
●建物延床面積	7.0 万m ²		
●完成年月	5.1 万m ²		
●従業員数	1968年8月		
	1860名		

●大気<該当設備なし>

●水質(水污染防治法)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	6.0～9.0	7.5	7.5～7.5 ^{※1}
BOD	30	24	24
COD	100	57	57
SS	30	24	24
溶解性鉄	10	0.57	0.57
溶解性マンガ	10	0.84	0.84
大腸菌群数	2000	18	18

※単位pH:なし 大腸菌群数:個/cc その他:mg/l% ※pH:水素イオン濃度
※BOD:生物化学的酸素要求量 ※COD:化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度
※NDは定量下限値以下です。 ※1 pHについては、最小値～最大値です。

SAE Magnetics (Hong Kong) Ltd.			
●所在地	SAE Tower, 38-42 Kwai Fung Crescent,		
●生産品目	Kwai Chung, New Territories, Hong Kong		
●土地面積	各種ヘッド製品		
●建物延床面積	6.9 万m ²		
●完成年月	1.4 万m ²		
●従業員数	1980年10月		
	7200名		

●大気(大気汚染管理条例)

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
ボイラー(1基)	軽油	二酸化硫黄(g/Nm ³)	0.7	0.225
		(kg/h)	1.33	0.48
		窒素酸化物(g/Nm ³)	0.42	0.067
		(kg/h)	0.4	0.14
		ばいじん(g/Nm ³)	0.15	0.1385
		(kg/h)	1.82	0.29
		煤煙(度)	1	1

●水質(水質汚染規制条例)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	6.0～9.0	7.3	6.8～7.3 ^{※1}
BOD	30	12	12.81
COD	100	52.4	56.02
SS	70	50.5	61
油	10	0.345	0.403

※単位pH:なし その他:mg/l% ※pH:水素イオン濃度 ※BOD:生物化学的酸素要求量
※COD:化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度
※1 pHについては、最小値～最大値です。

TDK(Thailand) Co., Ltd. Rojana Plant

●所在地	Rojana Industrial Park 1/62 Moo 5, Rojana Road, Tambol Kanham, Amphur Uthai, Ayutthaya, 13210, Thailand
●生産品目	オーディオテープ、金属磁石、チップコンデンサ
●土地面積	10.4 万m ²
●建物延床面積	1.4 万m ²
●完成年月	1991年11月
●従業員数	910名

●大気<該当設備なし>

●水質(共同排水処理施設受入基準)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	6～9	6.9	6.9～7.0 ^{※1}
BOD	1000	16.8	29
COD	1250	103.9	160
DS	3000	660.2	739.67
SS	200	39.8	50.33
硫化物(H ₂ S)	1	1.8	4.3 ^{※2}
シアン化物(HCN)	0.2	ND	ND
ホルムアルデヒド	1	0.02	0.03
フェノール・クレゾール	1	ND	ND
フッ化物	5	ND	ND
遊離塩素	1	ND	ND
遊離アンモニア	50	20.4	23.8
アンモニア	50	23.5	29.91
油、油脂	5	0.1	0.1
洗剤	100	3.6	6.11
亜鉛	5	ND	ND
クロム	0.5	0.005	0.007
ヒ素	0.25	ND	ND
銅	2	ND	ND
水銀	0.005	0.002	0.003
カドミウム	0.03	0.009	0.01
バリウム	1	ND	ND
セレン	0.02	ND	ND
鉛	0.2	0.04	0.042
ニッケル	0.2	0.007	0.0098
マンガン	5	ND	ND
銀	1	ND	ND
スズ	1	0.008	0.009
アルミニウム	5	0.04	0.04
全窒素	100	5.3	5.6

※単位pH:なし その他:mg/l ※pH:水素イオン濃度 ※BOD:生物化学的酸素要求量

※COD:化学的酸素要求量 ※DS:溶解性物質濃度 ※SS:水中の懸濁物質濃度

※NDは定量下限値以下です。 ※1 pHについては、最小値～最大値です。

※2 側溝の清掃を行ない、改善の結果は問題ありません。

TDK(Thailand) Co., Ltd. Wangnoi Plant

●所在地	149 Moo 5, Phaholyothin Road, Tambol Lamsai, Amphur Uthai, Ayutthaya, 13170, Thailand
●生産品目	VCM
●土地面積	1.2 万m ²
●建物延床面積	1.0 万m ²
●完成年月	1998年12月
●従業員数	210名

●大気<該当設備なし>

●水質(工業団地局通達)

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	5.5～9.0	8.4	8.2～8.7 ^{※1}
BOD	20	9.67	16
COD	120	24.67	42
TDS	3000	212	358.17
SS	50	15.67	28.33
油、油脂	5	ND	ND
カドミウム	0.03	0.0033	0.0039
鉛	0.2	0.035	0.046
ニッケル	10	0.0292	0.0419
銅	2	0.0173	0.0438
亜鉛	5	0.0188	0.0409
セレン	0.02	ND	ND
硫化物	1	0.52	0.68
ホルムアルデヒド	1	0.08	0.11

※単位pH:なし その他:mg/l ※pH:水素イオン濃度 ※BOD:生物化学的酸素要求量

※COD:化学的酸素要求量 ※TDS:全溶解性物質濃度 ※SS:水中の懸濁物質濃度

※NDは定量下限値以下です。 ※1 pHについては、最小値～最大値です。

TDK Philippines Corporation	
●所在地	119 East Science Avenue Special Export Processing Zone Laguna Technopark, Binan, Laguna, Philippines
●生産品目	磁気ヘッド
●土地面積	8.4 万m ²
●建物延床面積	3.4 万m ²
●完成年月	1997年12月
●従業員数	3500名

●大気＜該当設備なし＞

●水質（環境法典）

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	6.5～9.0	7.3	6.8～7.8 ^{※1}
BOD	50	19	33
COD	100	53	97
固形物	70	28	48

※単位pH:なし その他:mg/l※ pH:水素イオン濃度 ※BOD:生物化学的酸素要求量
※COD:化学的酸素要求量 ※NDは定量下限値以下です。
※1 pHについては、最小値～最大値です。

TDK Softec (M) Sdn. Bhd.	
●所在地	Lot 35, Sector B, HICOM Industrial Area, Section 26, 40000 Shah Alam, Selangor Darul Ehsan, Malaysia
●生産品目	
●土地面積	
●建物延床面積	フェライトコア
●完成年月	3.0 万m ²
●従業員数	0.9 万m ²
	1989年7月
	300名

●大気＜該当設備なし＞

●水質＜測定実績なし＞

TDK Components U.S.A., Inc.

●所在地	1 TDK Boulevard, Highway 74 South, Peachtree City, GA 30269-2047 U.S.A.
●生産品目	チップコンデンサ
●土地面積	6.1 万m ²
●建物延床面積	0.6 万m ²
●完成年月	1986年7月
●従業員数	340名

●大気<該当設備なし>

●水質

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	5.0～11.0	7.1	6.3～8.6 ^{※1}
BOD	900	35.8	119
COD	1500	89.9	164
全窒素	60	0.597	0.95
全カドミウム	0.037	ND	ND
全クロム	1.71	0.01	0.01
銅	0.235	0.02	0.02
全シアン化物	0.082	0.01	0.01
鉛	0.111	0.05	0.05
ニッケル	0.909	0.148	0.36
銀	0.241	0.017	0.07
亜鉛	0.186	0.029	0.14
TTO	2.13	0.076	0.087
TSS	900	11.7	21.4

※単位pH:なし その他:mg/l ※pH:水素イオン濃度 ※BOD:生物化学的酸素要求量
 ※COD:化学的酸素要求量 ※TTO:全有害有機物 ※TSS:水中の全懸濁物質濃度
 ※NDは定量下限値以下です。 ※1pHについては、最小値～最大値です。

Discom, Inc.

●所在地	334 Littleton Road, Westford, MA 01886 U.S.A.
●生産品目	フェライトチップ、EMI
●土地面積	1.8 万m ²
●建物延床面積	0.3 万m ²
●完成年月	1988年8月
●従業員数	20名

●大気<該当設備なし>

●水質<測定実績なし>

TDK ferrites Corporation				
●所在地	5900 North Harrison Street, Shawnee, OK 74804 U.S.A.			
●生産品目	フェライト磁石、フェライトコア			
●土地面積	32.5 万m ²			
●建物延床面積	2.8 万m ²			
●完成年月	1987年5月			
●従業員数	510名			

●大気

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
乾燥炉(2基)	天然ガス	硫黄酸化物	0	0
		窒素酸化物	1.951	1.417
		ばいじん	18.634	1.719
		一酸化炭素	0.489	0.284
仮焼炉(3基)	天然ガス	硫黄酸化物	0	0
		窒素酸化物	2.492	1.32
		ばいじん	0	0
		一酸化炭素	1.119	0.2
ロータリーキルン スクラバー(1基)	天然ガス	硫黄酸化物	0	0
		窒素酸化物	0	0
		ばいじん	1.434	0.914
		一酸化炭素	0	0
焼成炉(12基)	天然ガス	硫黄酸化物	0	0
		窒素酸化物	25.414	8.359
		ばいじん	29.826	11.638
		一酸化炭素	5.713	1.527
仮焼炉(4基)	天然ガス	硫黄酸化物	0	0
		窒素酸化物	15.85	7.773
		ばいじん	9.409	5.681
		一酸化炭素	7.338	4.829
		塩化水素	3.872	1.555

※1 単位はトン/年です。 ※2 全対象施設の合計値を入れてあります。

●水質

項目	規制値	実績 排水溝1		実績 排水溝2	
		平均値	最大値	平均値	最大値
pH	5.0～12.5	7.9	7.3～8.8 ^{※1}	8.0	7.3～8.7 ^{※1}
温度	65	26.1	32.7	19.5	26.3
TSS	500	26	280	52	220
鉄	50	2	50	7	40
クロム	0.467	0.012	0.063	0.006	0.03

※単位pH:なし 温度:℃ その他:mg/ℓ ※pH:水素イオン濃度
※TSS:水中の全懸濁物質濃度 ※1 pHについては、最小値～最大値です。

TDK de Mexico S.A. de C.V.				
●所在地	Calle Ohm #8450, Parque Ind. A.J. Bermudez Cd. Juarez, Chihuahua, Mexico			
●生産品目	フェライト磁石、コイル、トランス、フィルタ			
●土地面積	1.6万m ²			
●建物延床面積	4.2万m ²			
●完成年月	1974年1月			
●従業員数	990名			

●大気<該当設備なし>

●水質

項目	規制値	実績 平均値	最大値
pH	6.0～9.0	8.4	8.4～8.4 ^{※1}
脂、脂肪	55	14.6	14.6
BOD	220	173	173
全固形物	2100	1089	1089
SS	180	70	70
沈殿物	1.5	1	1
溶解性物質	1500	1068	1068
石ケン	30	14.5	14.5
鉄	1.5	0.57	0.57
亜鉛	2	ND	ND
アルミニウム	1.5	0.127	0.127
銅	0.4	0.02	0.02
クロム	0.5	0.03	0.03

※単位pH:なし その他:mg/ℓ ※pH:水素イオン濃度
※BOD:生物化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。
※1 pHについては、最小値～最大値です。

TDK Manufacturing Deutschland GmbH

●所在地	Glan Straße 33, 66887, Rammelsbach Germany
●生産品目	オーディオテープ、CD-R、ELコイル
●土地面積	8.7 万m ²
●建物延床面積	1.5 万m ²
●完成年月	1985年12月
●従業員数	380名

●大気<該当設備なし>

●水質<測定実績なし>

TDK Recording Media Europe S.A.

●所在地	Z.I. Bommelscheuer, P.O. BOX 120 L-4902 Bascharage, Grand Duchy of Luxembourg
●生産品目	オーディオテープ、ビデオテープ CD-R、MD
●土地面積	6.0 万m ²
●建物延床面積	4.6 万m ²
●完成年月	1989年8月
●従業員数	630名

●大気

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
EGI ^{※4} (2基)	有機溶剤ガス 天然ガス	硫黄酸化物	500	0.1
		窒素酸化物	500	67.8
		ばいじん	50	0.2
		一酸化炭素	100	23
		残存炭化水素 ^{※5}	20	6.5
		無機塩素化合物	30	ND
		無機フッ化化合物	5	ND
EGI ^{※4} (1基)	テトラフルオロ プロパンガス	硫黄酸化物	35	ND
		窒素酸化物	200	123
		ばいじん	5	8.2
		一酸化炭素	100	ND
		残存炭化水素 ^{※5}	20	ND
		無機フッ化化合物	2	0.36

※1 単位はmg/Nm³です。 ※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。

※3 実績は全対象施設の年間での最大値です。 ※4 脱臭剤です。

※5 炭素成分の量で表しています。

●水質<測定実績なし>

BT Magnet-Technologie GmbH	
●所在地	Forellstraße 100, 44629 Herne, Germany
●生産品目	フェライト磁石
●土地面積	5.1 万m ²
●建物延床面積	1.0 万m ²
●完成年月	1990年12月
●従業員数	520名

●大気＜測定実績なし＞

●水質（共同排水処理施設受入基準）

項目	規制値	実績	
		平均値	最大値
pH	7.0～12.0	9.8	8.8～10.8 ^{※1}
COD	1000	351	351
揮発性ハロゲン化炭化水素	1	0.787	0.787

※単位pH:なし その他:mg/l ※pH:水素イオン濃度 ※COD:化学的酸素要求量
※1 pHについては、最小値～最大値です。

TDK Electronics Hungary	
●所在地	Pusztaszantói u. 10, Ipari Park, 2651 Retsag, Magyarország Hungary
●生産品目	フェライトコア
●土地面積	10.0 万m ²
●建物延床面積	1.4 万m ²
●完成年月	1997年
●従業員数	900名

●大気

設備	燃料	排出物質 ^{※1}	規制値 ^{※2}	実績 ^{※3}
ボイラー(5基)	都市ガス	窒素酸化物	0.135	0.0838
		一酸化炭素	4.5	0.0324

※1 単位はkg/hrです。 ※2 規制値は対象施設のうち一番厳しい値を入れてあります。
※3 実績は全対象施設の年間での最大値です。

●水質

項目	規制値	実績	
		平均値	最大値
pH	6.5～10.0	8.1	7.5～8.5 ^{※1}
COD	1000	138.7	270
アンモニア性窒素	150	28.1	59
SS	-	667	750
亜鉛	10	0.59	0.89
銀	0.2	ND	ND
カドミウム	0.1	ND	ND
クロム	1	ND	ND
ニッケル	1	ND	ND
鉛	0.4	ND	ND
銅	2	0.08	0.14
鉄	20	0.55	0.74
有機溶剤	50	3.8	5.2
洗剤	50	0.91	0.91

※単位pH:なし その他:mg/l ※pH:水素イオン濃度
※COD:化学的酸素要求量 ※SS:水中の懸濁物質濃度 ※NDは定量下限値以下です。
※1 pHについては、最小値～最大値です。